

KIT-SET® 施工マニュアル

EEPLAN

注意事項

マニュアルはあくまで参考です。

資材の形状、寸法を保証するものではありません。

また、素人、玄人問わず、作成の期間を保証するものではありません。

不足部材、寸法が足りない等の対応については迅速に送付する等の対応を致しますが、それにより生じた経費については、弊社では一切の責任を負いません。

また、施工上の責任は全て、購入者様になります。

資材が風で飛んで、被害を出さないように、十分に気をつけて施工してください。

また、本マニュアルの複製、転写、その他、ネットでの公開等による、営利目的での利用は、刑事告訴の対象になります。

ご自身でお使い頂く範囲に置いては、複製頂いても構いません。

全ての工事で必要な物

考えられる危険な事について、十分に検討が必要です。
ご自身の怪我、2次被害、その他全ての損害について、ご自身の責任になります。

安全用ゴーグル：埃、飛散物から大切な目を守ります。



作業手袋：切り傷等に有効です。手を滑らせる等の不慮の事故を未然に防ぎます。



認定ヘルメット：頭上部からの落下物、自身の落下からのリスクを減らします。



認定安全靴：重量落下物、ハンマーの内損じからのリスクを減らします。



安全帯：落下からのリスクを減らします。



土台据え付け時に必要な工具

仕様工具 汎用インパクトドライバーもしくは、電動ドリル



アンカーボルト孔用のドリルの刃。+1～3ミリ程度大きな刃をご使用ください。



ハンマー



電動丸鋸 or 手動のこぎり

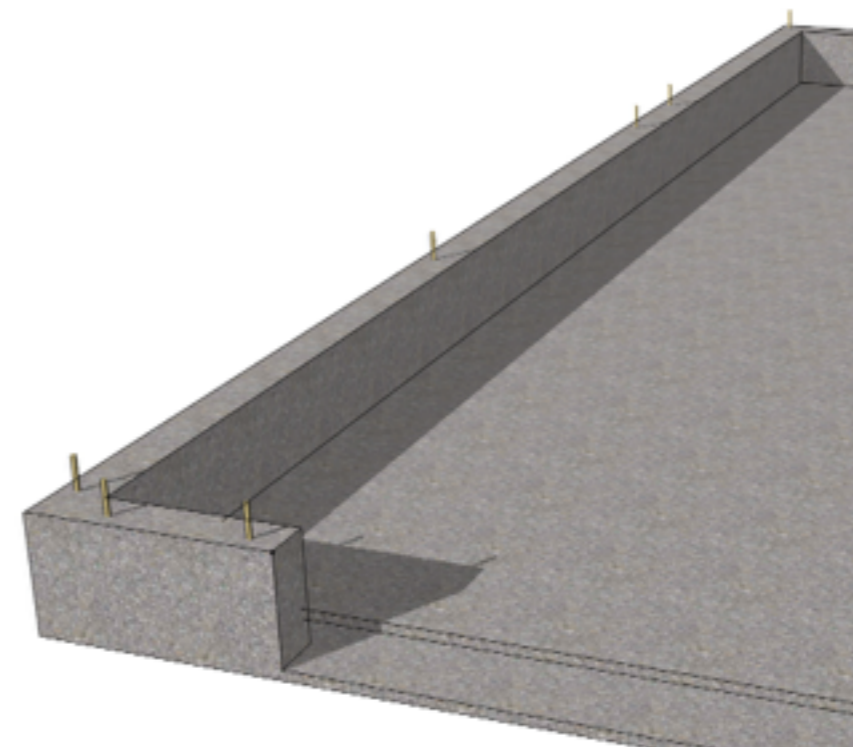
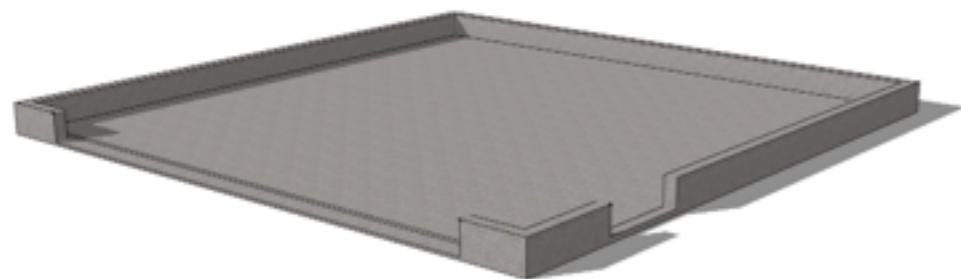
すみつば 長い直線を引く為の道具です。



座ぐりドリル 40～60ミリ（座金より大きいもの） or のみ

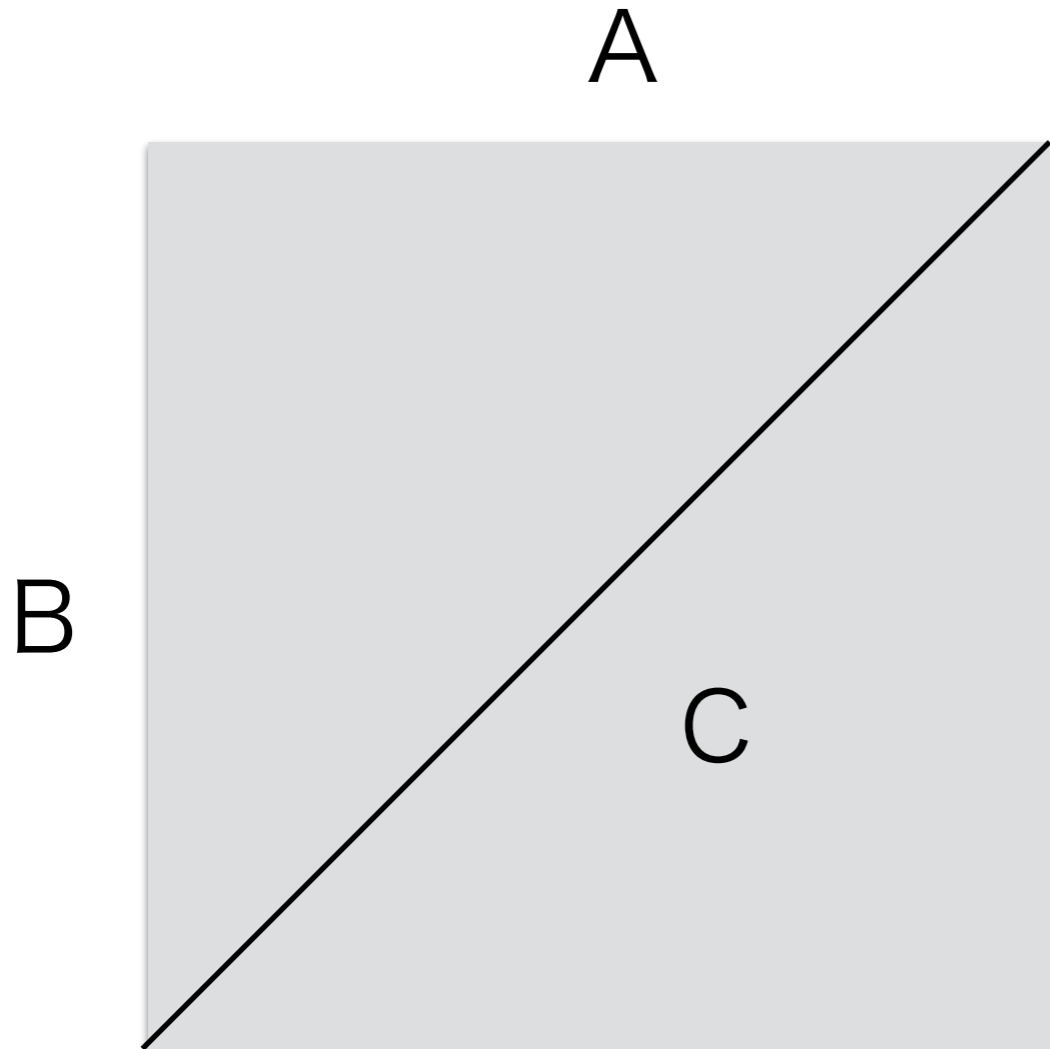


マニュアルは参考として、6mx6mの建物になります。
他のサイズの建物でも応用できる内容になっております。



まず、念のため、4隅の直角が出ていて、基礎がフラットであるか確認をとります。

4辺の長さと、4隅が直角か確認します。



四隅が直角か確認を取る方法はいくつかありますが、基本的に、全てピタゴラスの定理を使います。詳細は省きますので、下記計算例のみ記載しておきます。

$$A \times A + B \times B = C \times C$$

例えば6m×6mの基礎であれば、

$$A \ 6 \times 6 = 36 \quad B \ 6 \times 6 = 36$$

$$36 + 36 = 72$$

72のルートは8.485m

つまりCの長さが8.485mであれば、A,Bの交点が90度です。

同じように、反対側も確認してみてください。

仮に、6mちょうどではない場合は、下記のようになります。

Aが6010ミリ Bが6005ミリであれば、

そでそれ二乗して足した数値のルートは8495.88です。

仮にずれていたとしても、次の工程に移って下さい。

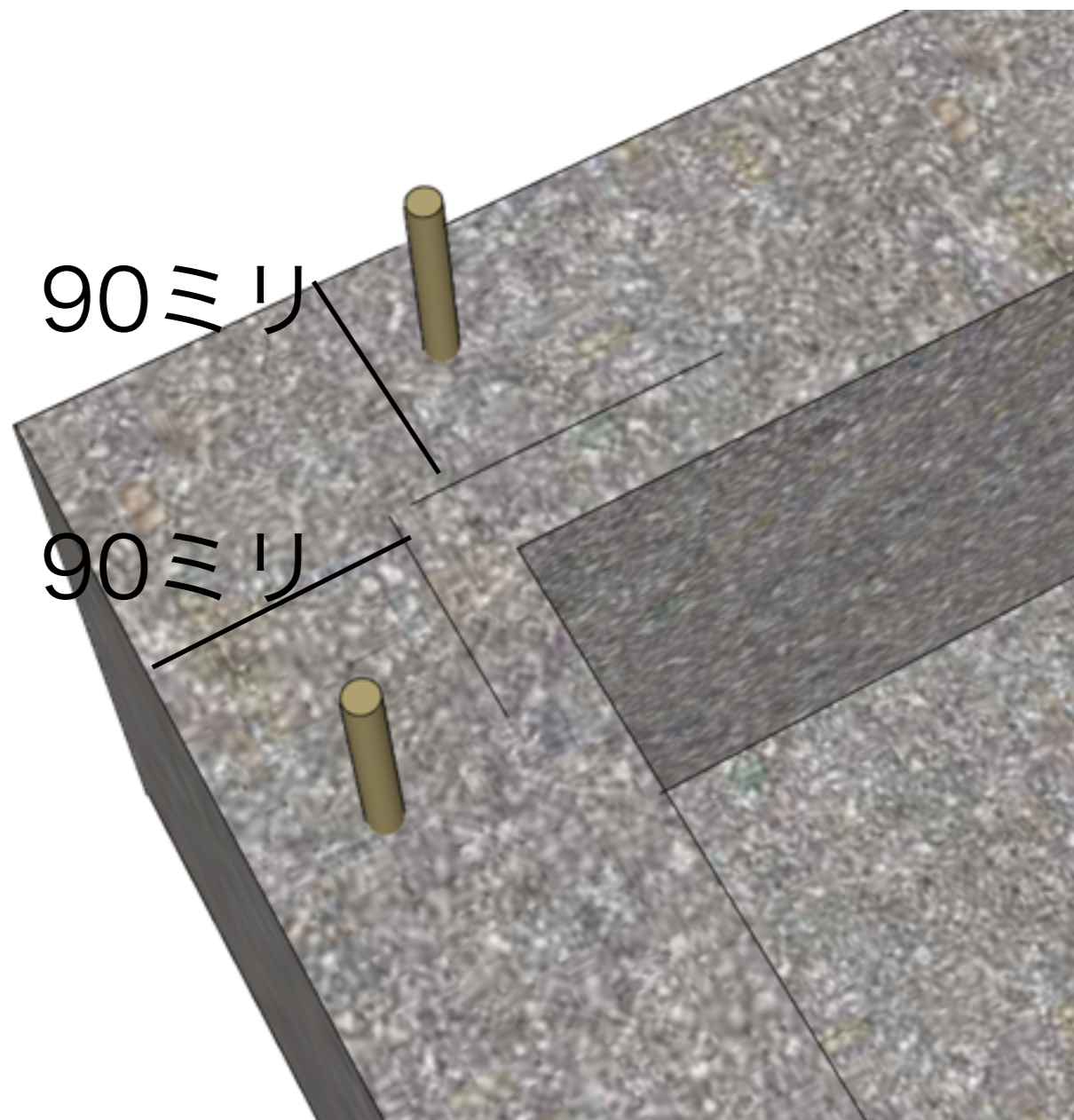
あまりにも数値にずれがある場合は、基礎を是正してください。

(基礎に土台が乗らない等です。)

基礎に土台が完全にのる場合で、基礎が土台よりも大きい場合は水切り板金等でご対応ください。

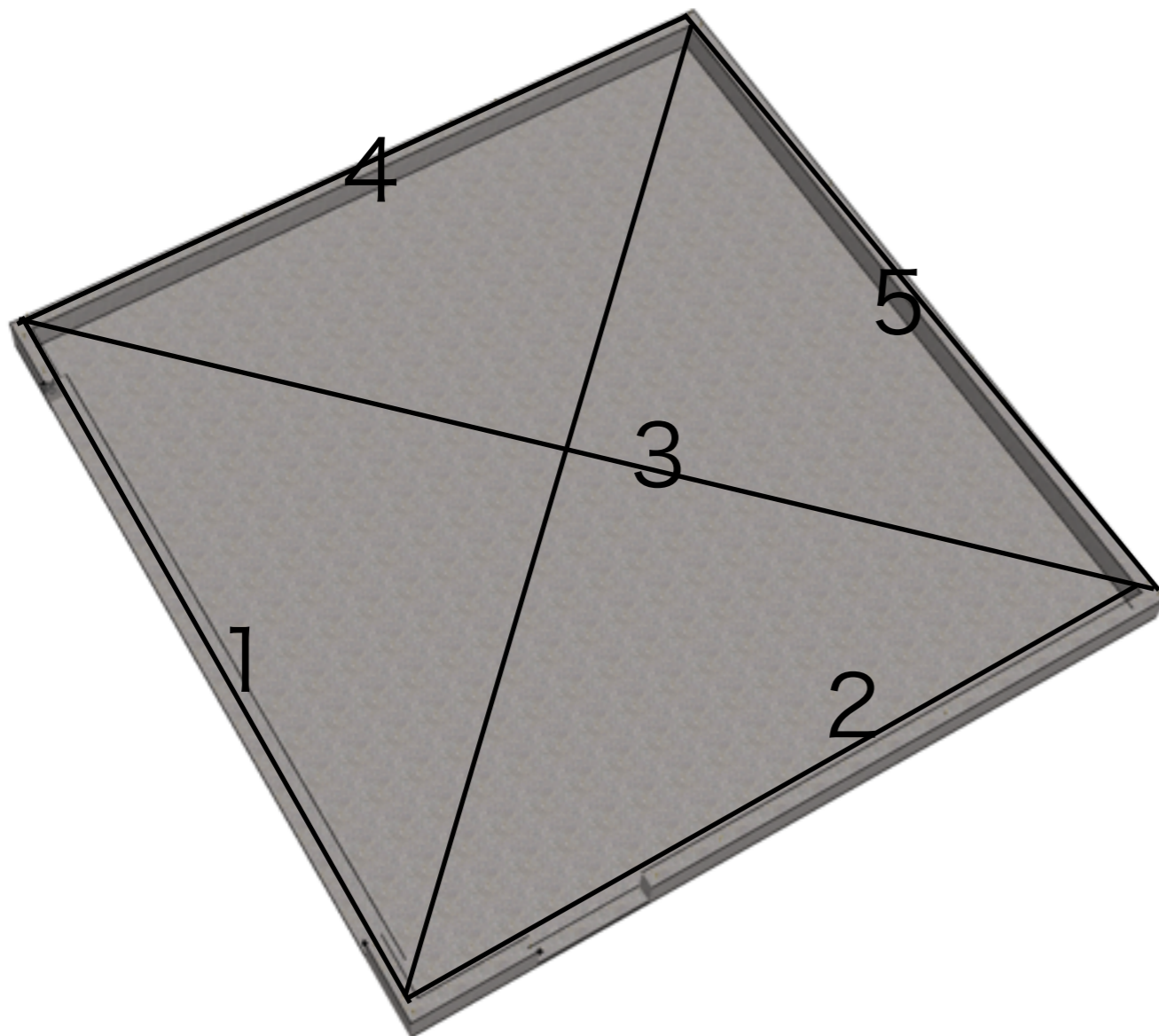
(商品によってはオプションになります。)

土台の内側のラインを引きます。



まず、前面（正面）のラインを基準にしますので、
前面の左右の隅に 左記のように鉛筆で印をつけてください。

土台の内側のラインを引きます。



土台の内側なので、土台の90ミリ+90ミリを引いた数で、対角線の寸法を出して下さい。

$$6000-180=5820$$

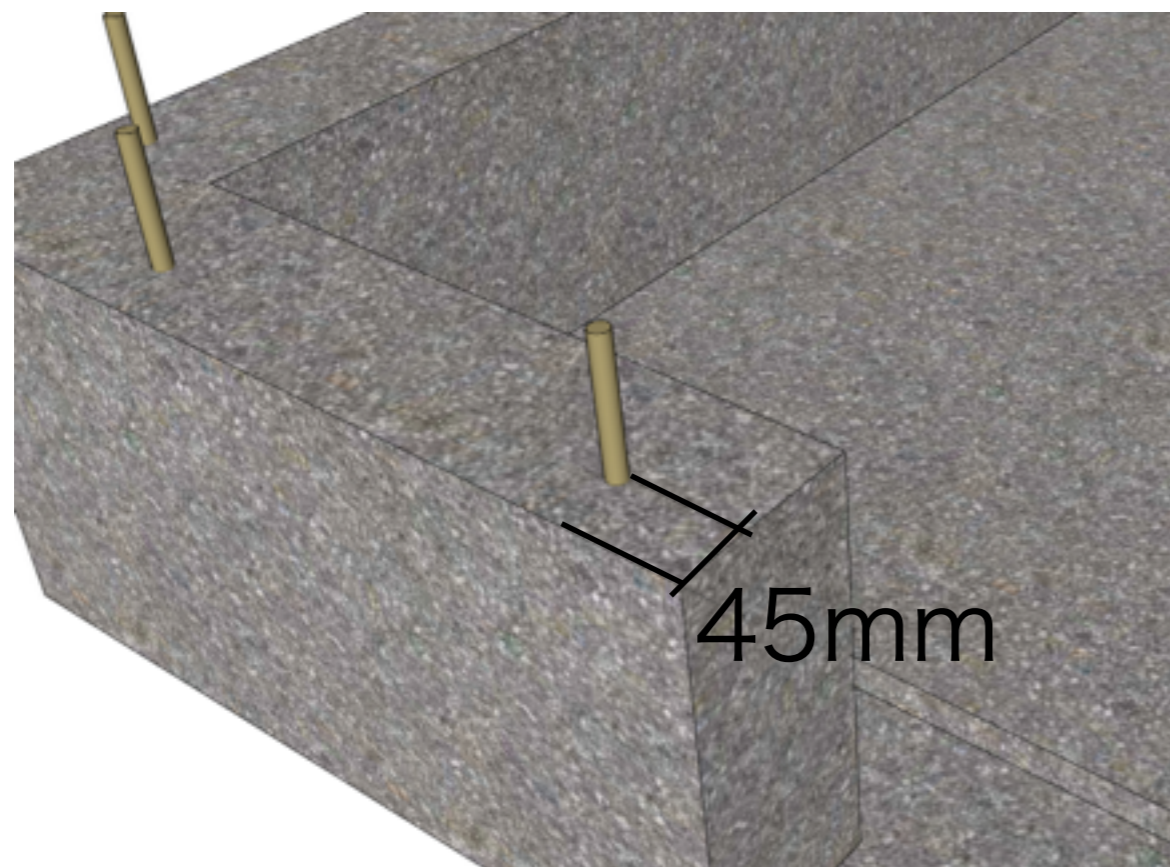
対角線は8.2307mです。

2と3の交点を記します。

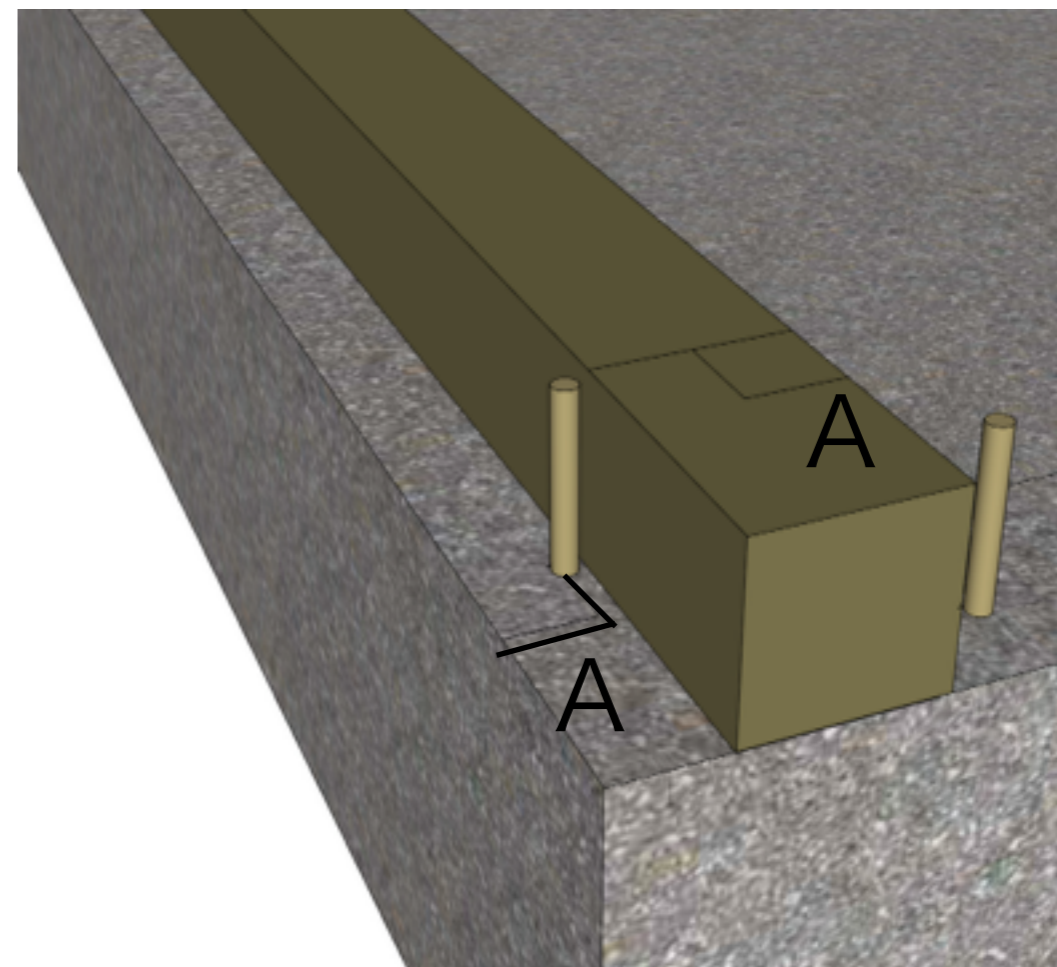
4と4の交点を記します。

5のラインを引いてください。引けます。

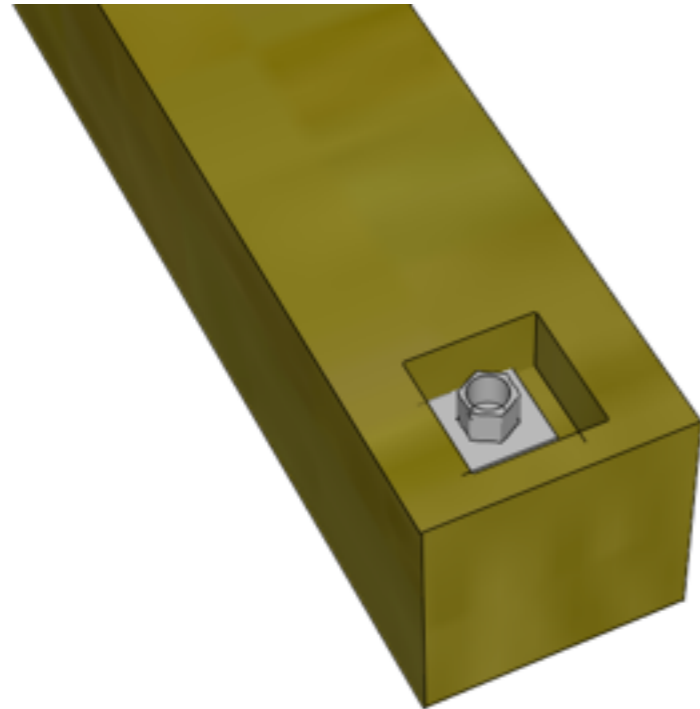
1と5, 2と4が平行か確認してください。



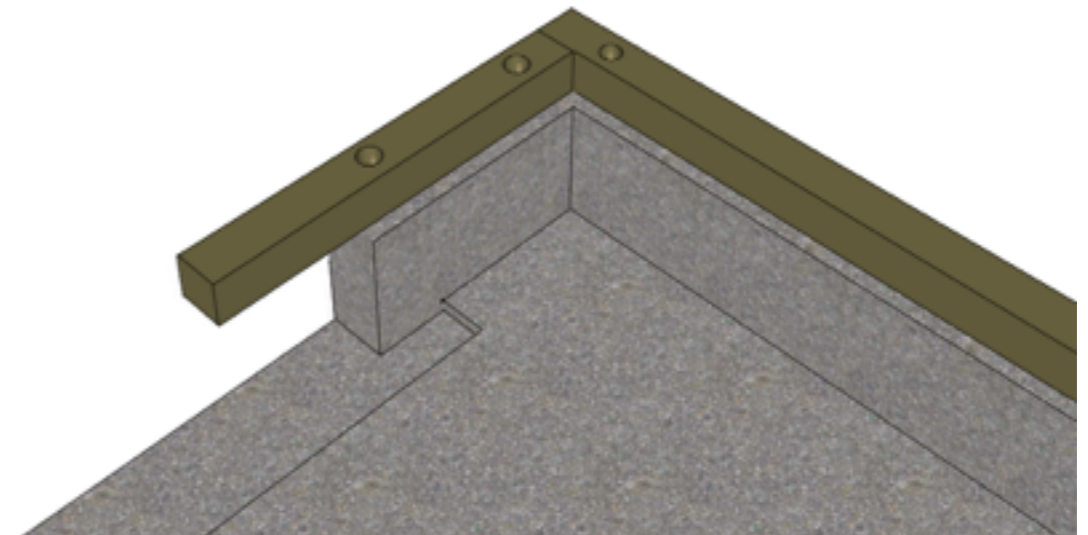
基礎の外表面から45mmをアンカーボルトの芯、つまり、壁の芯になります。
もし、60ミリや80ミリ位
ある場合、任意で水切りを付けて下さい、



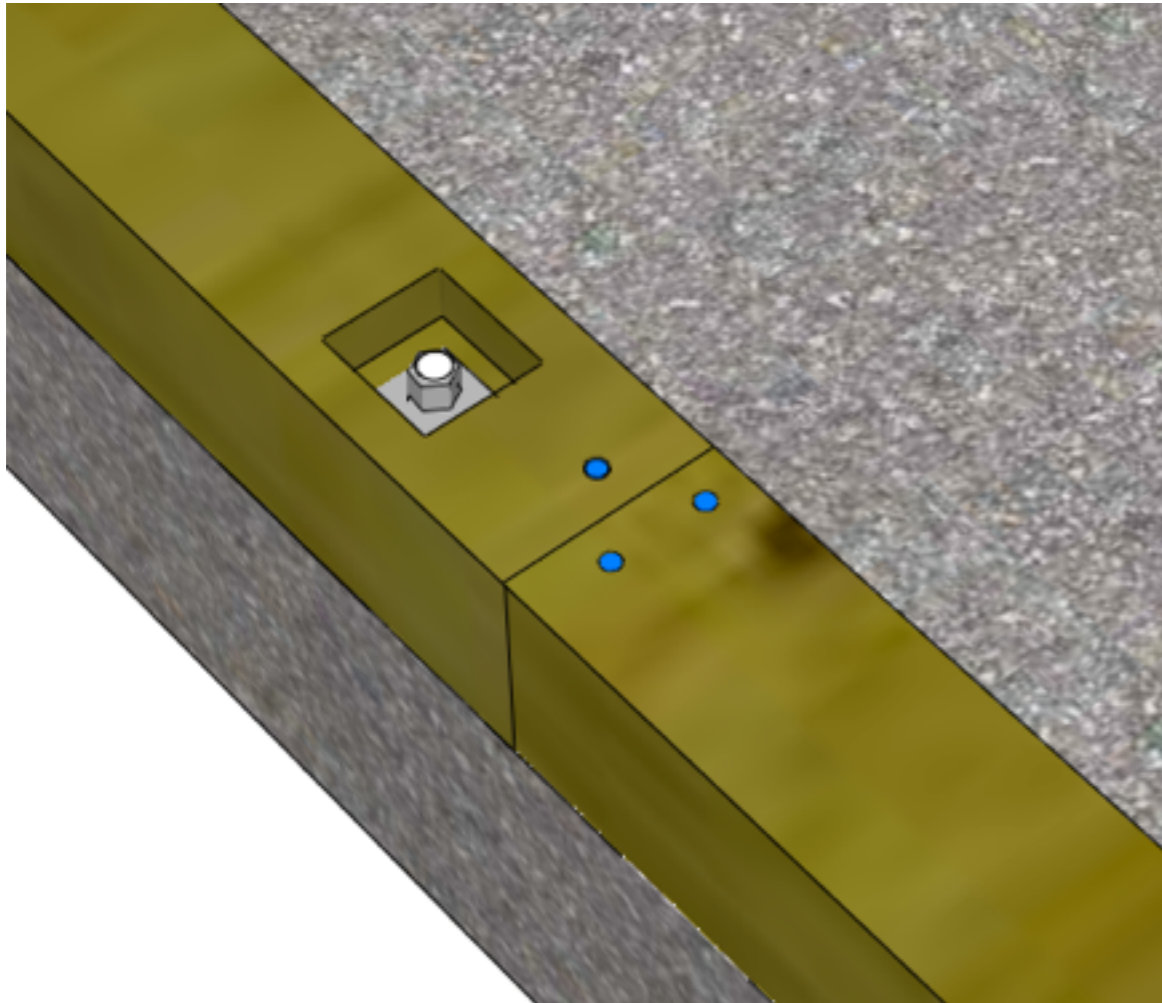
※あくまで参考です。任意で施工してください。
土台を裏返して基礎のAの寸法と、土台のAの寸法を同じにしてください。



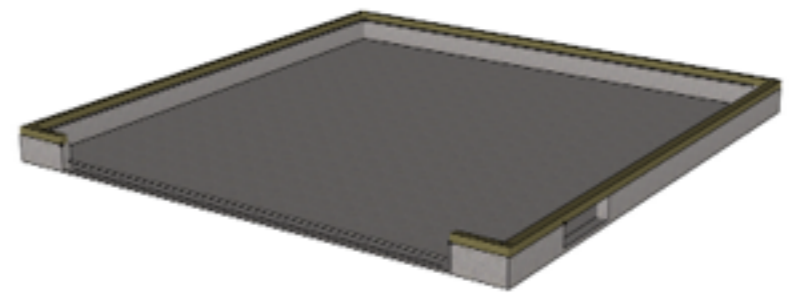
表にして、丸でも四角でもかまいませんので、座ぐりどりるか、のみで1,2センチ掘ってください。



開口部については、調整時に、ずれますので、余裕を持った長さの木を使ってください。固定後にカットしてください。



土台と土台の接合部分は75ミリの青い釘を3本以上、斜めに止めて下さい。



土台据え付け完成です。開口部については、パネル設置後のカットでも問題はありません。

釘の種類と長さ



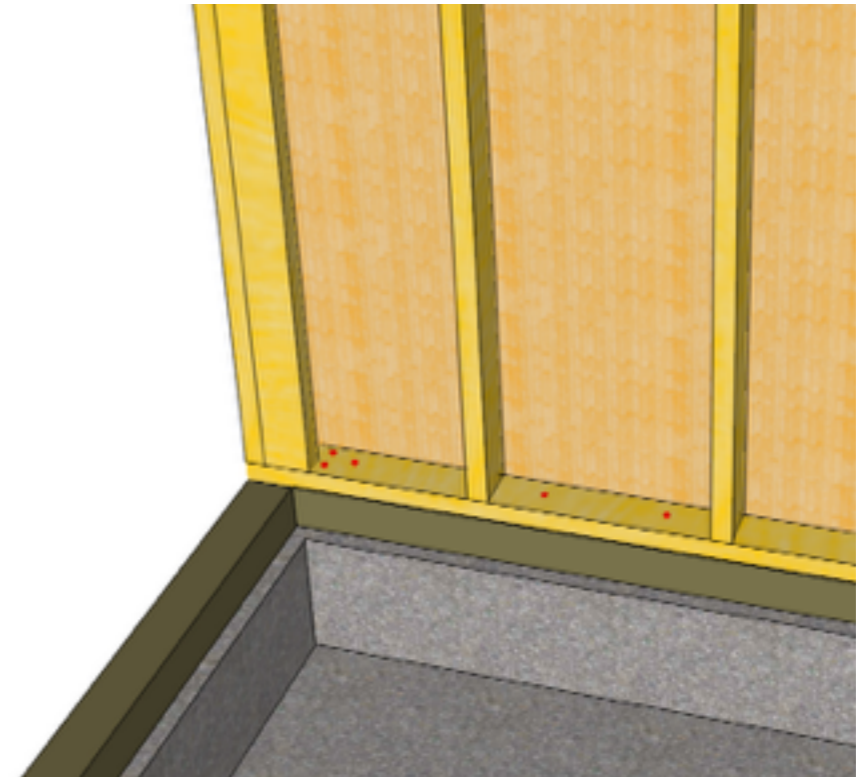
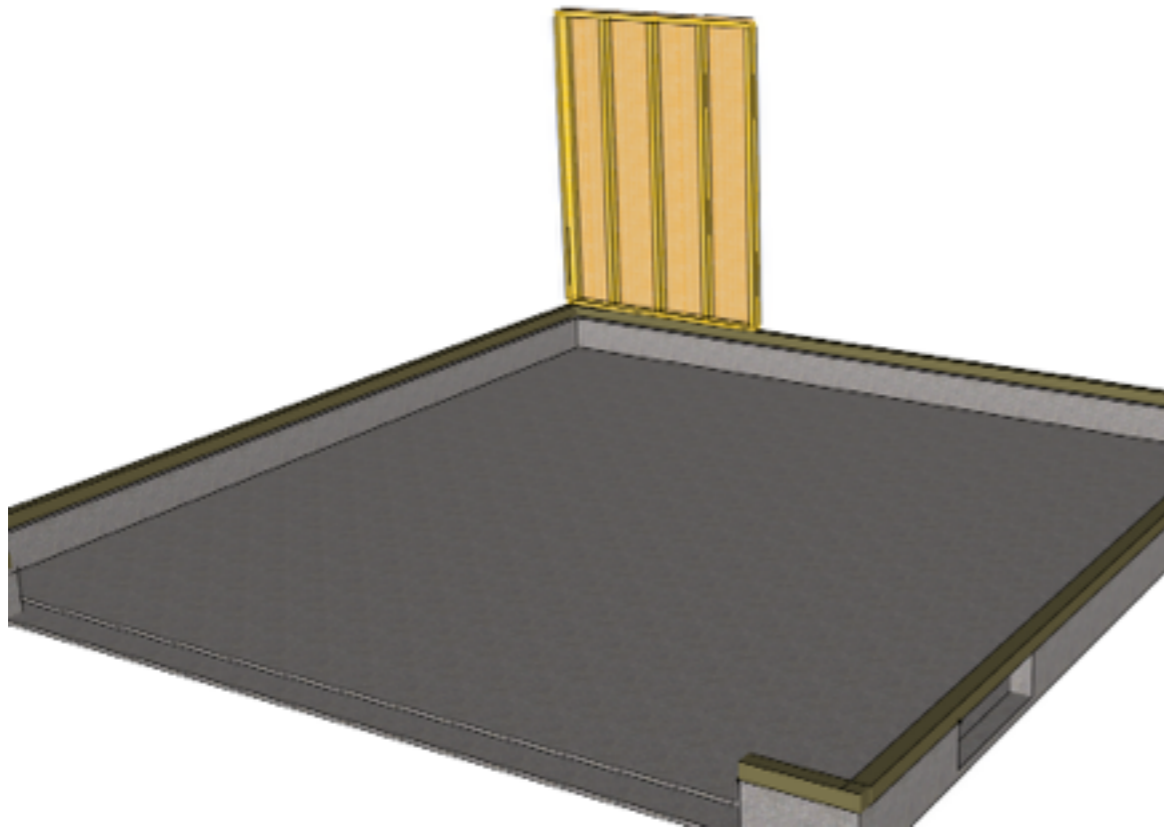
90mm 釘 赤色



75mm 釘 青色

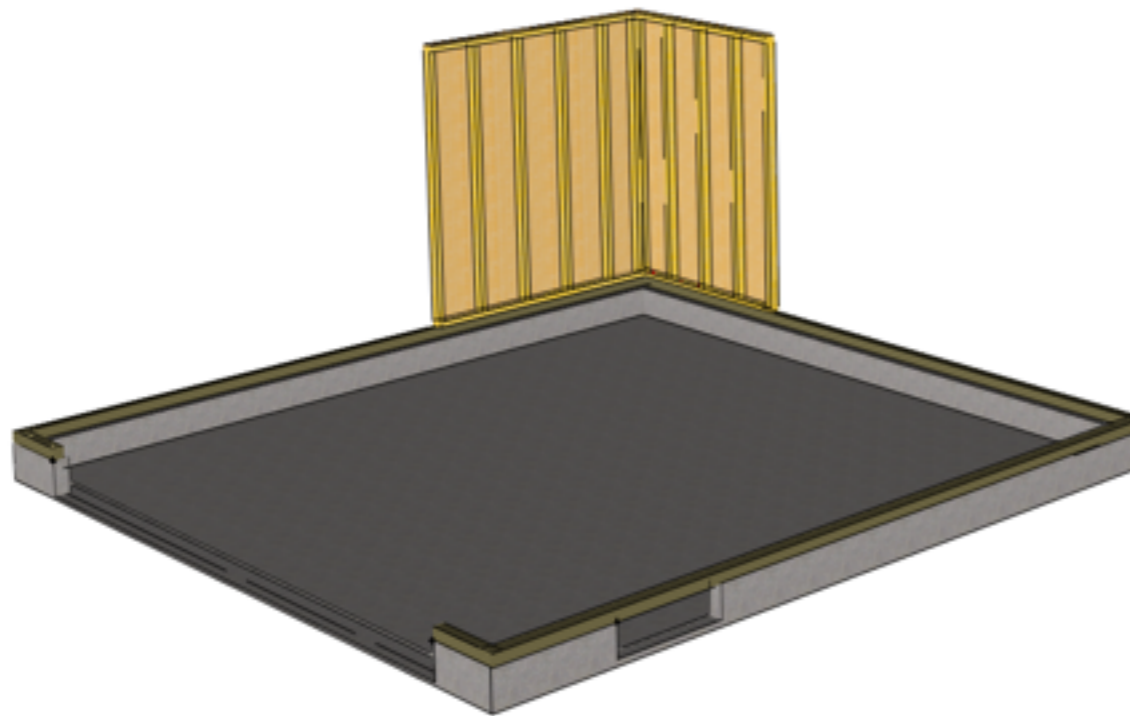


50mm 釘 緑色

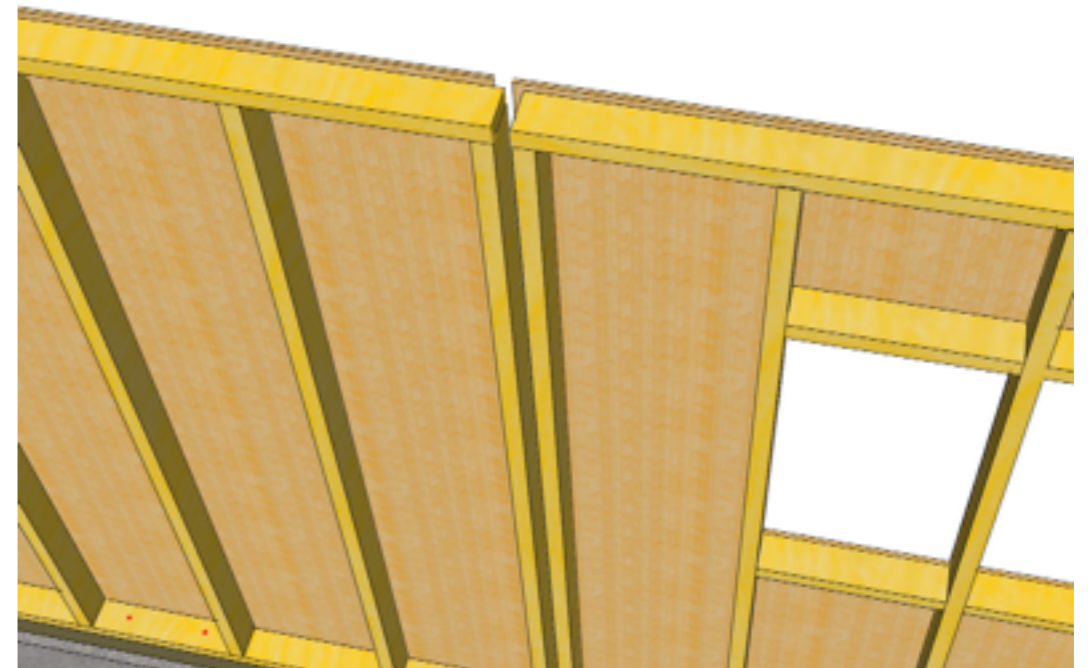


どこから建ててもいいですが、もしガレージの前面に資材が置いてある場合、一番置くから建ててください。

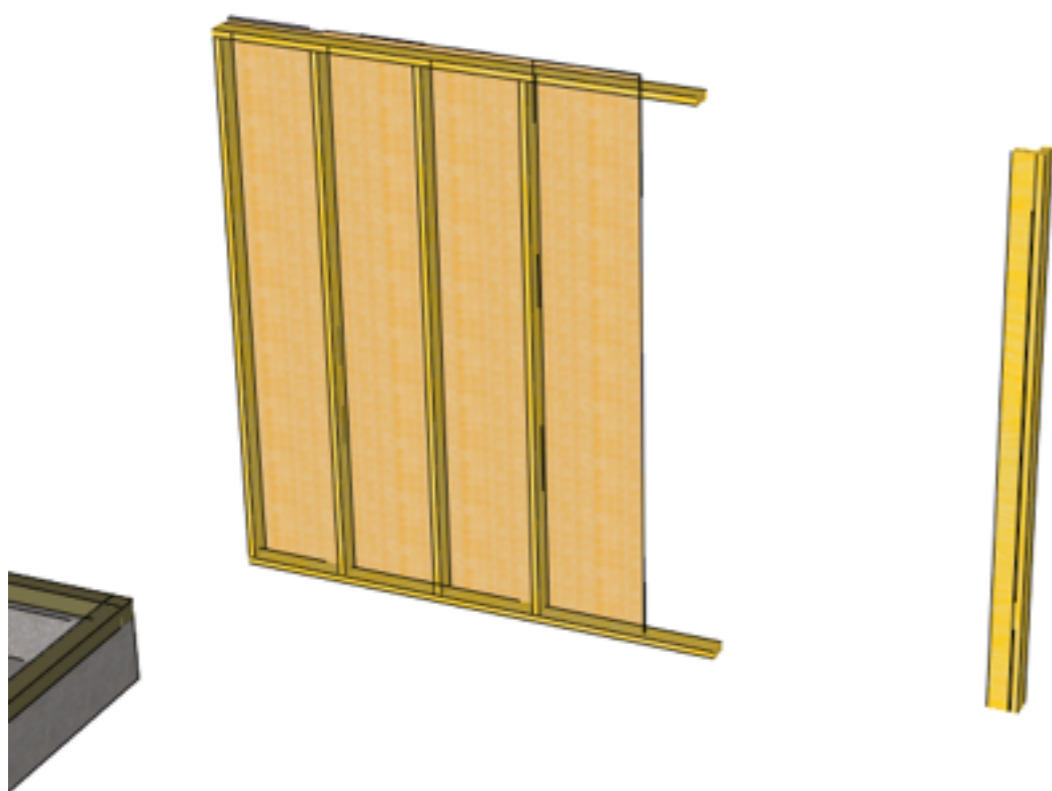
パネルのジョイント部分には90ミリのネイルを2本以上。柱と柱の間には2本以上止めて下さい。



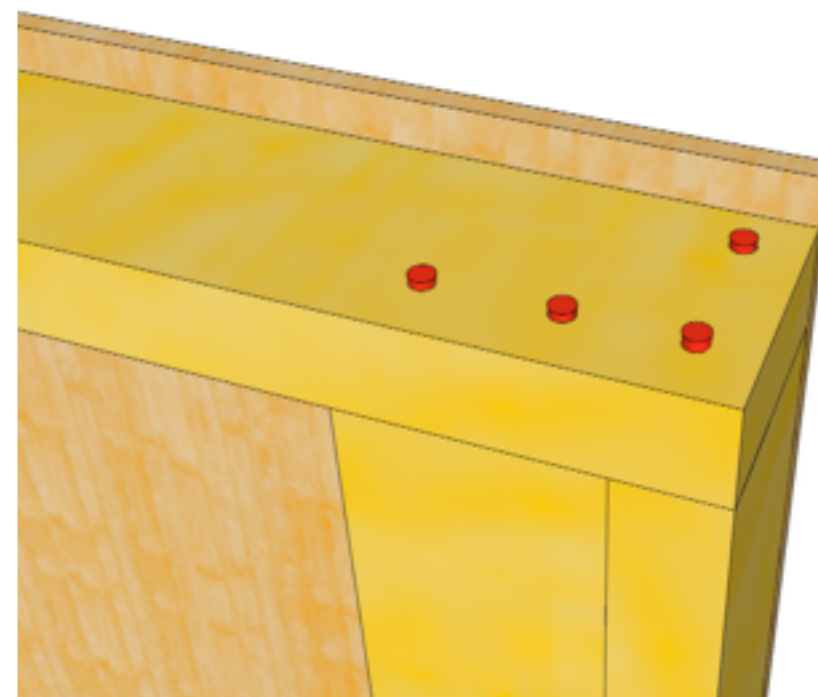
まず、角を作ってください。倒れにくくなります。



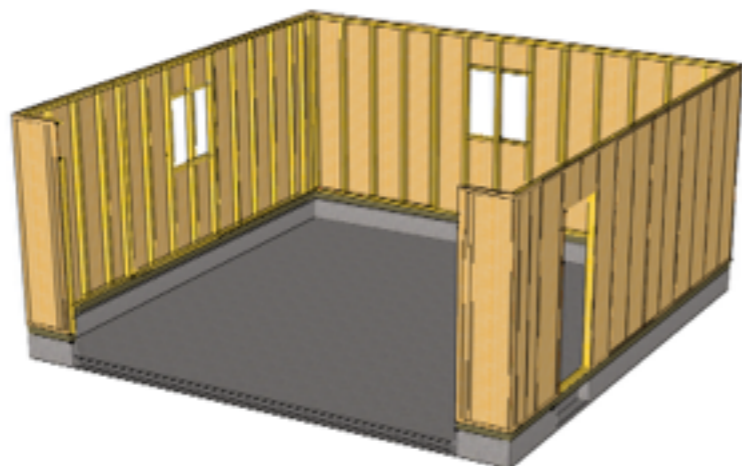
ジョイント部分は合板が18,9ミリ出ておりますが、出ていない場合は、それに見合うパッキンをカット頂き、必要に応じて、入れてください。



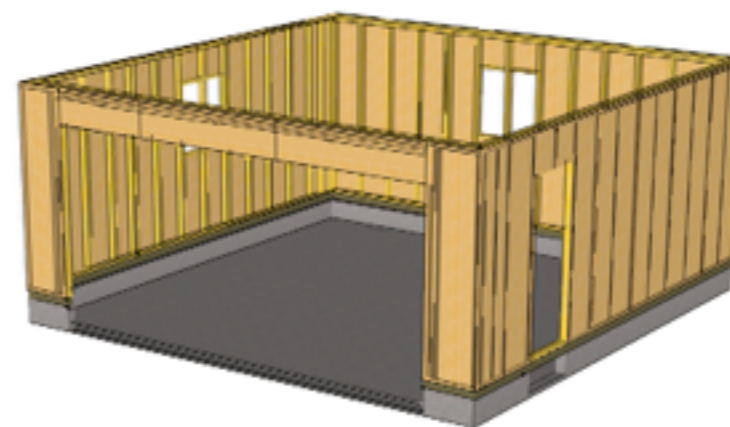
もう片方の端部は現状に合わせてカットし、柱を入れて下さい。



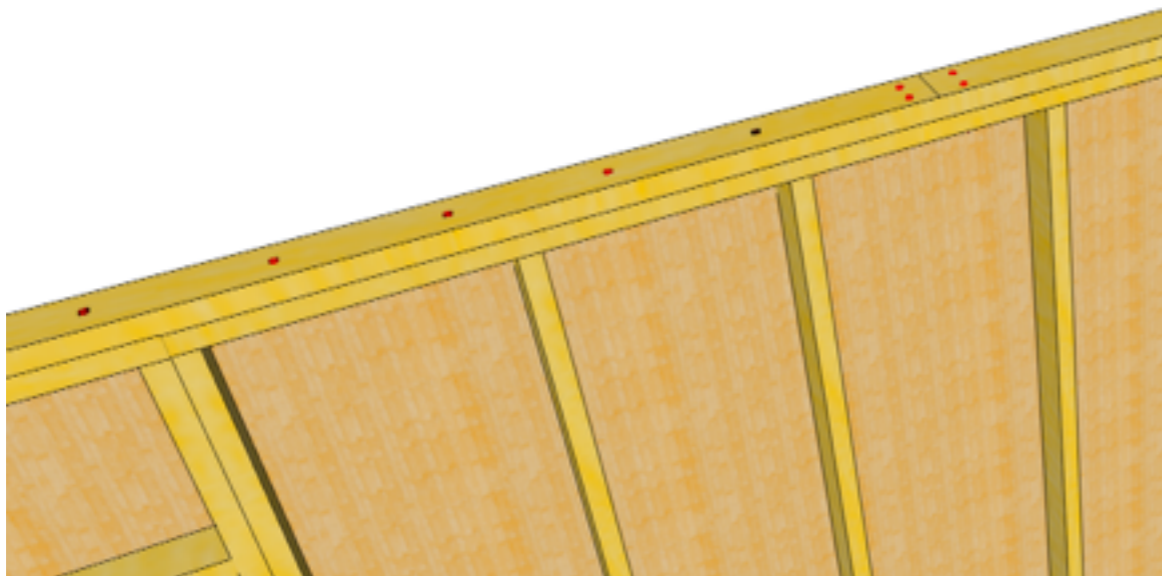
上下 90ミリの釘で止めて下さい。



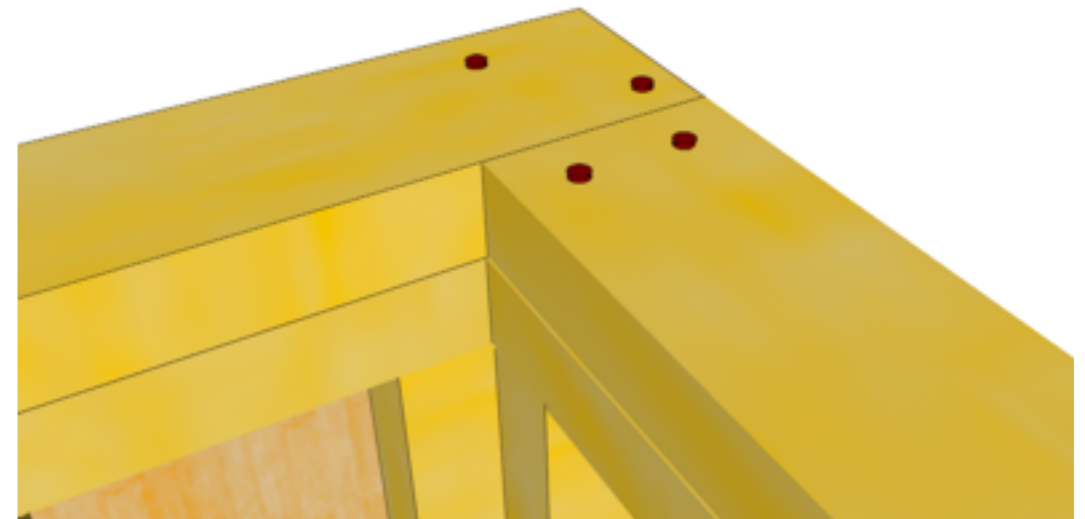
同じ作業の繰り返しで、ここまで完成します。



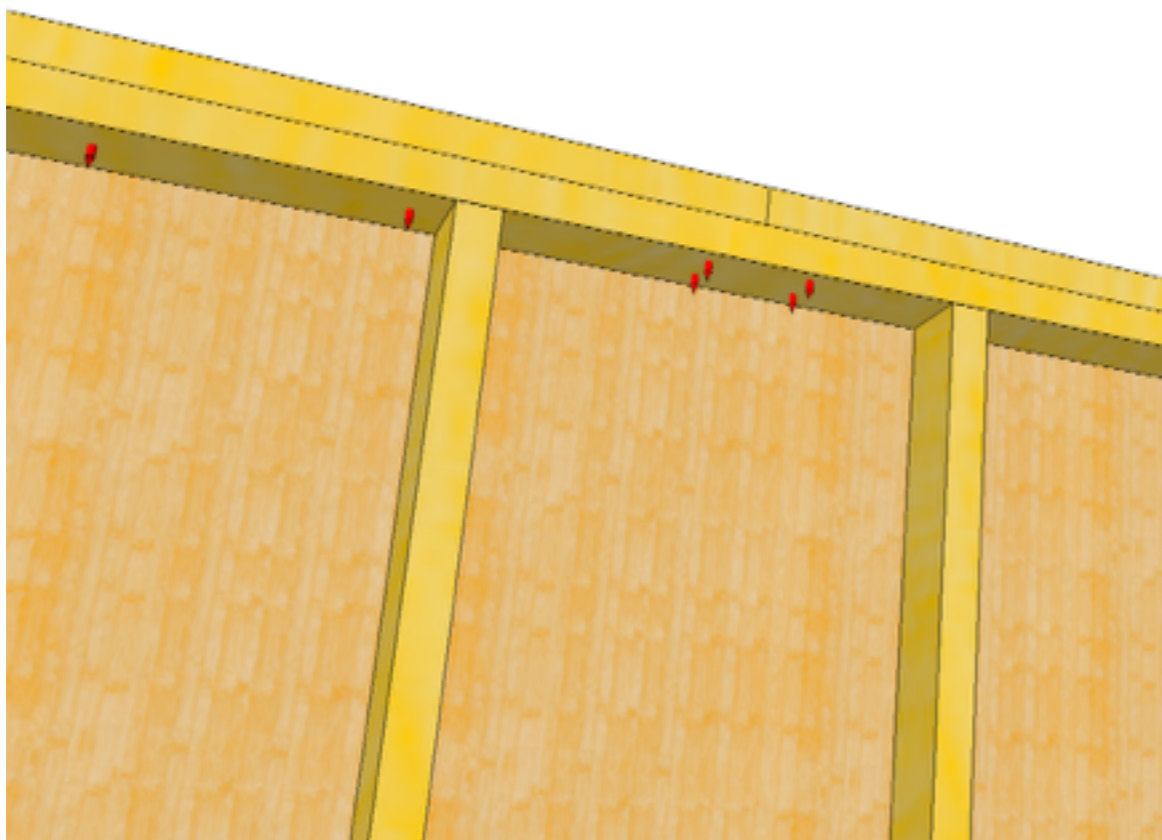
マグサをいれます。念のため。開口部が傾いていないかご確認ください。
また、開口部のサイズもご確認ください。



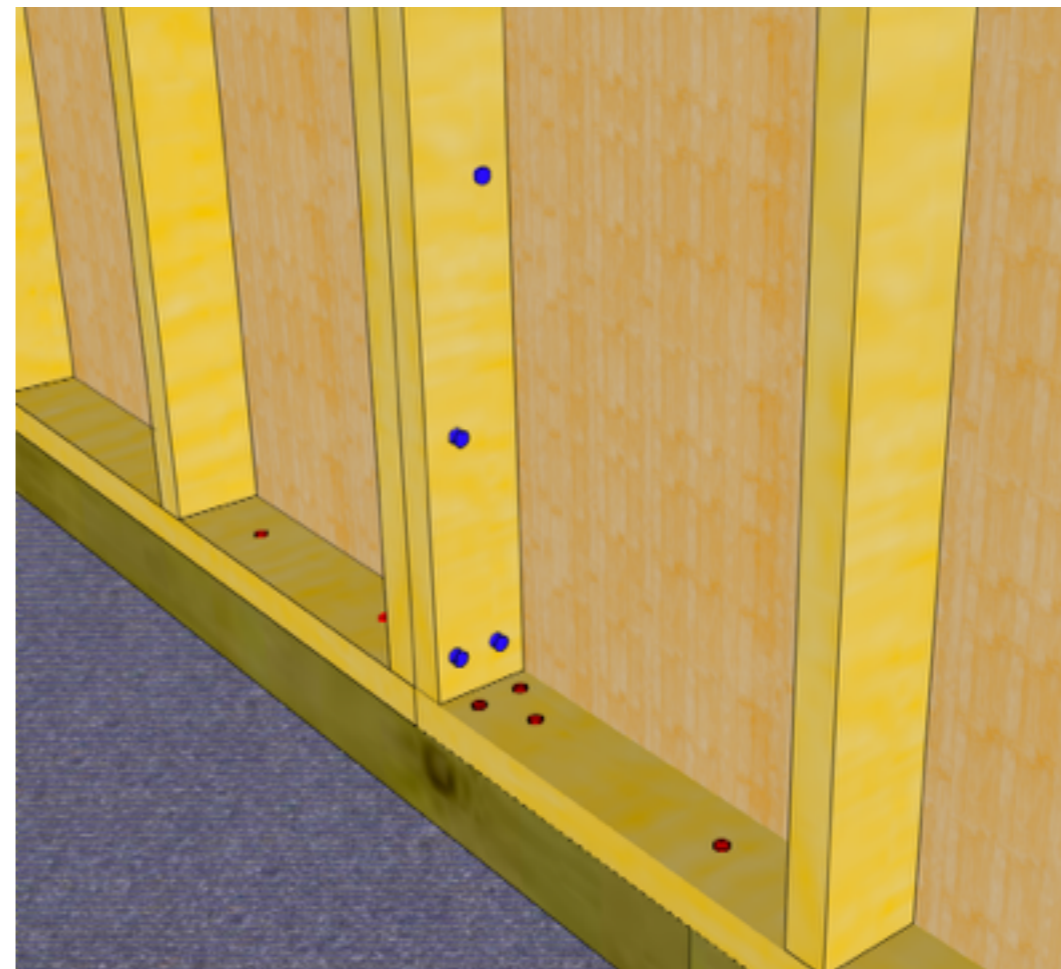
頭つなぎをいれます。ジョイント部分は4本使ってください。



隅部分はこのように止めます。



釘は貫通させてください。

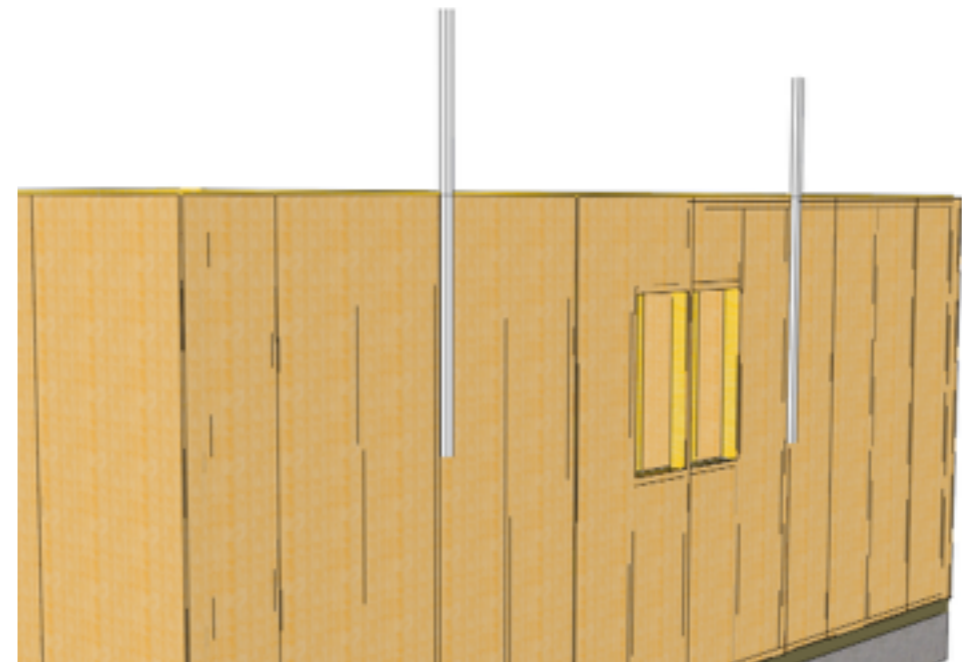


柱のジョイント部分は片面打ち 75ミリ 200ピッチ以下になります。

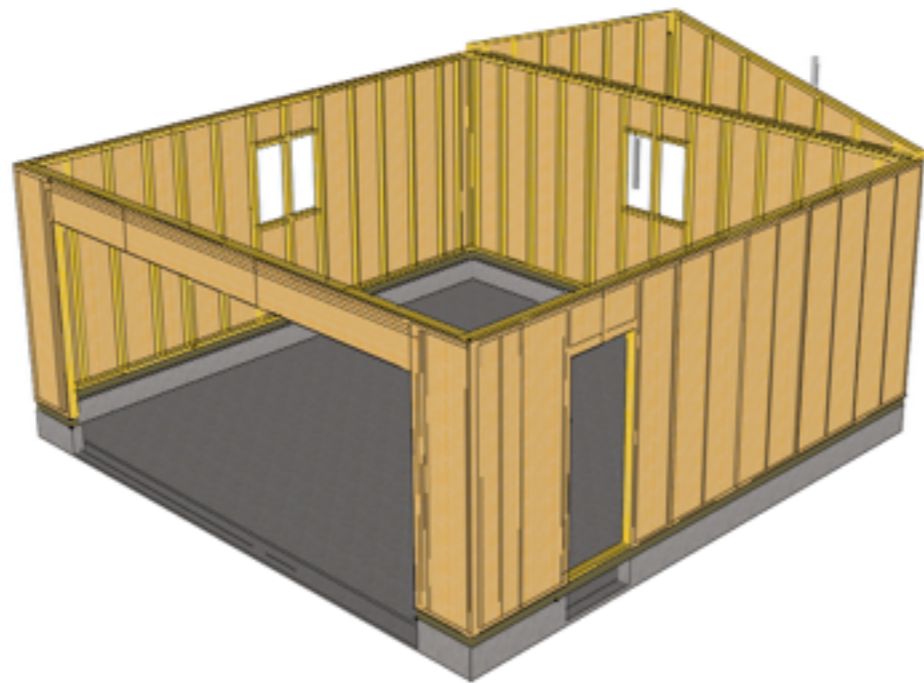
隅のジョイント部分は片面打ち 90ミリ 200ピッチ以下になります。



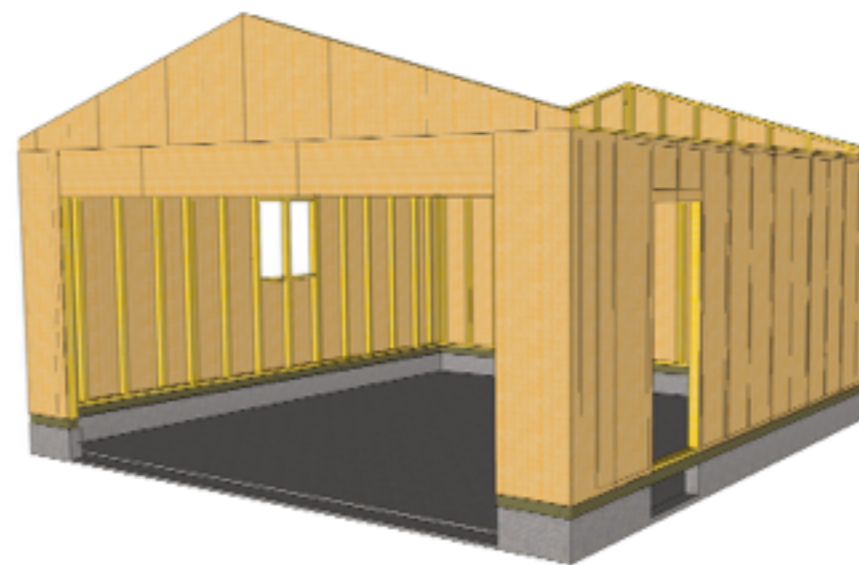
妻壁を乗せます。



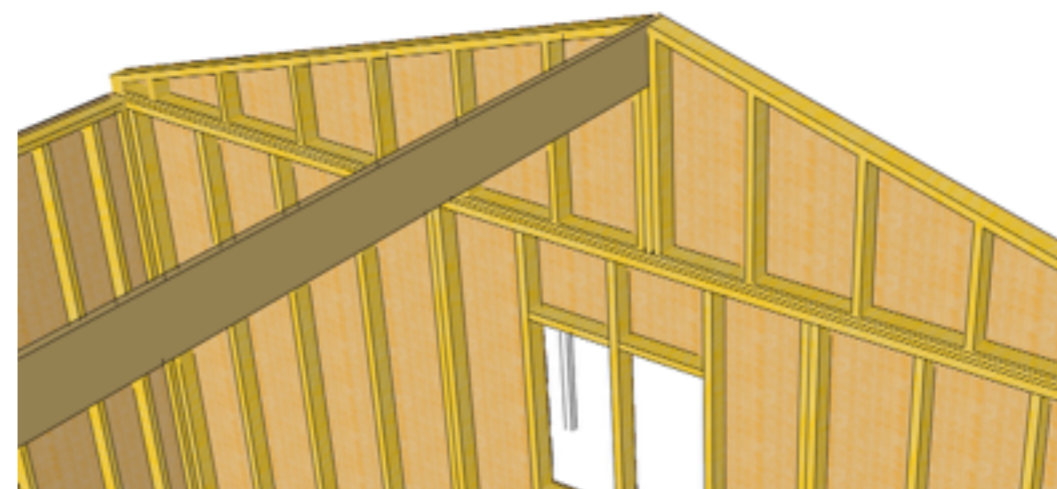
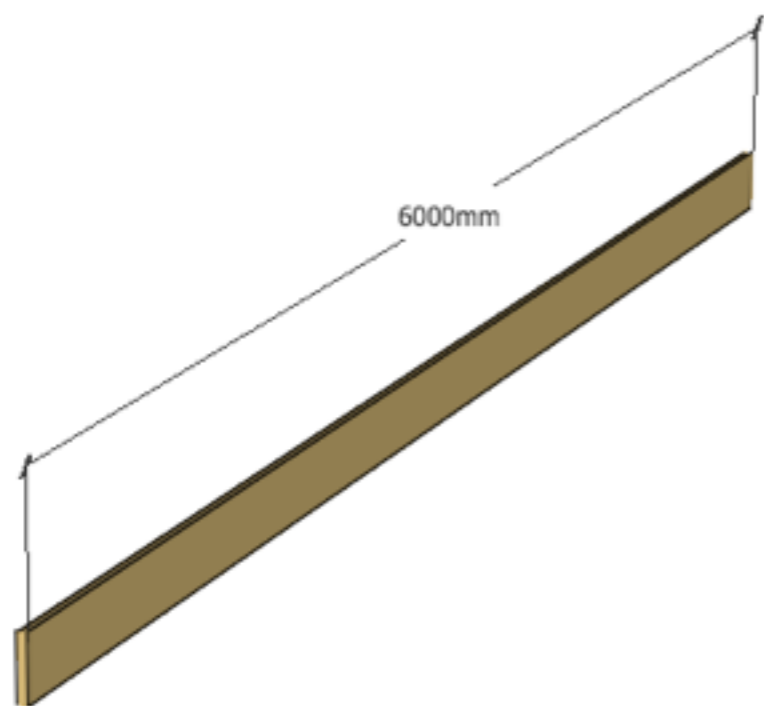
乗せる際に、転倒することがありますので、
なにか、棒を仮づけすると安全です。



妻壁を乗せます。

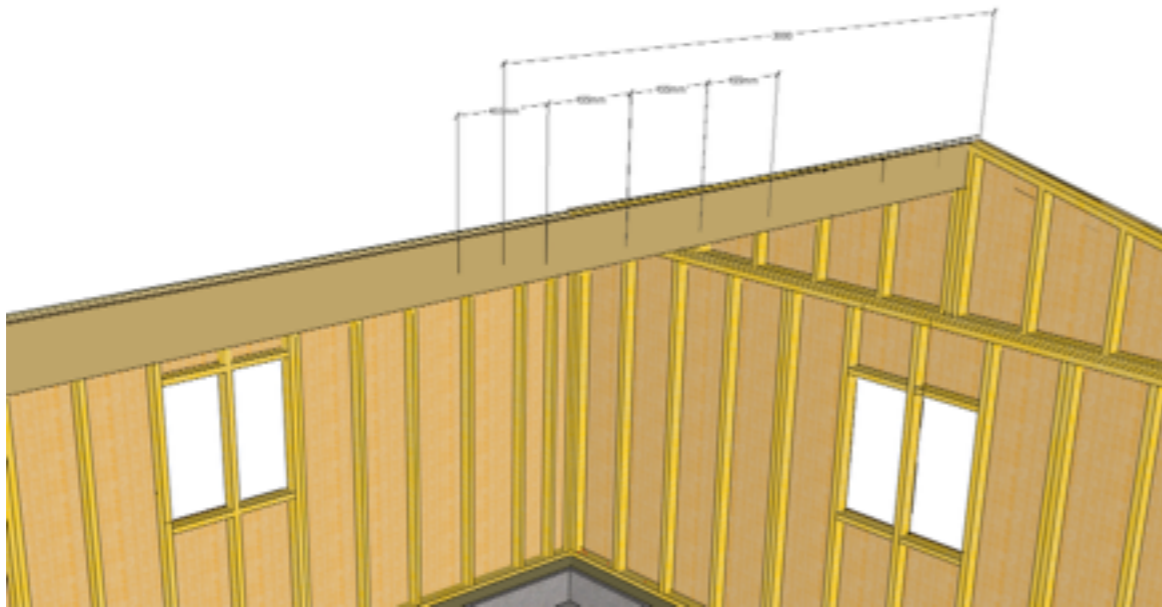


乗せる際に、転倒することがありますので、
なにか、棒を仮づけすると安全です。

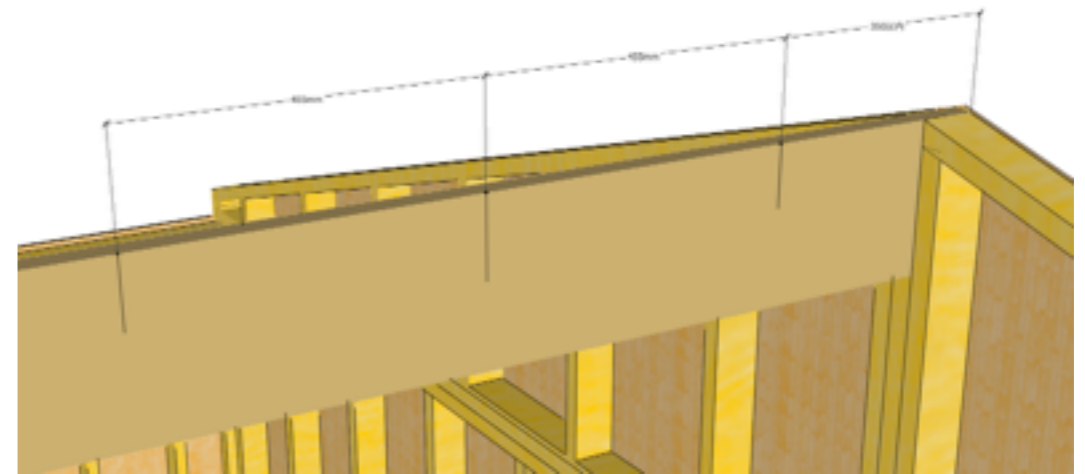


棟木（ムナギ）を入れます。
この際、棟木の寸法が6000ミリ（もしくは、土台の外法寸法と同じ）を確認してください。

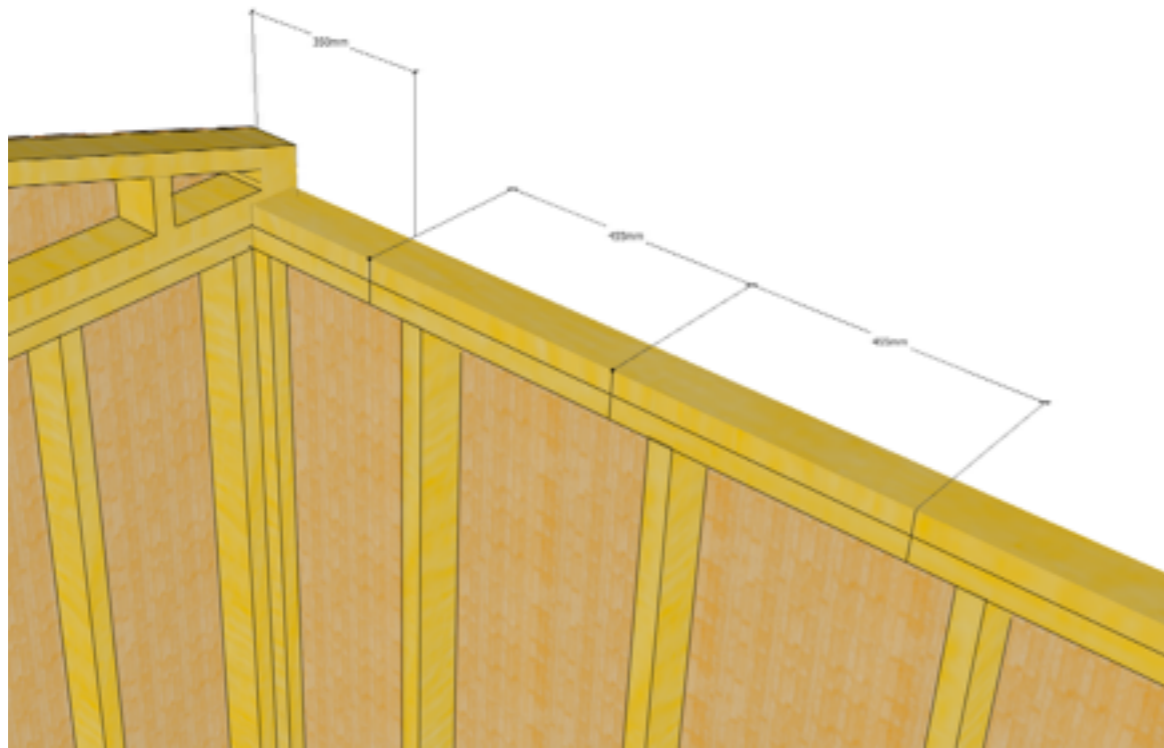
入りにくい場合、木っ端を当てて、その上からハンマーで打ち付けて下さい。



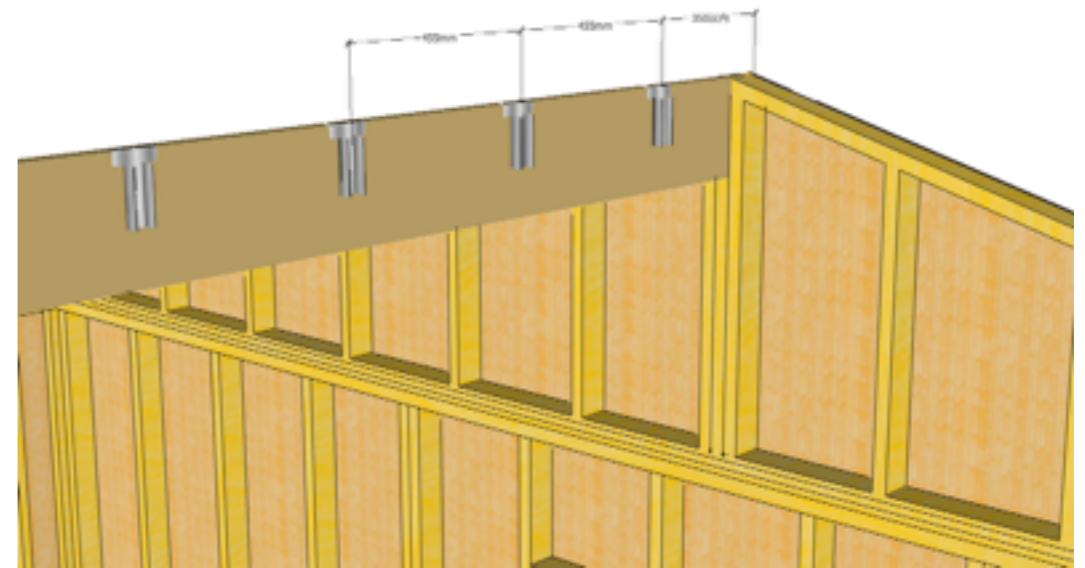
中心から均等に割り付けて下さい。
(端部から455mmでも構いません。)



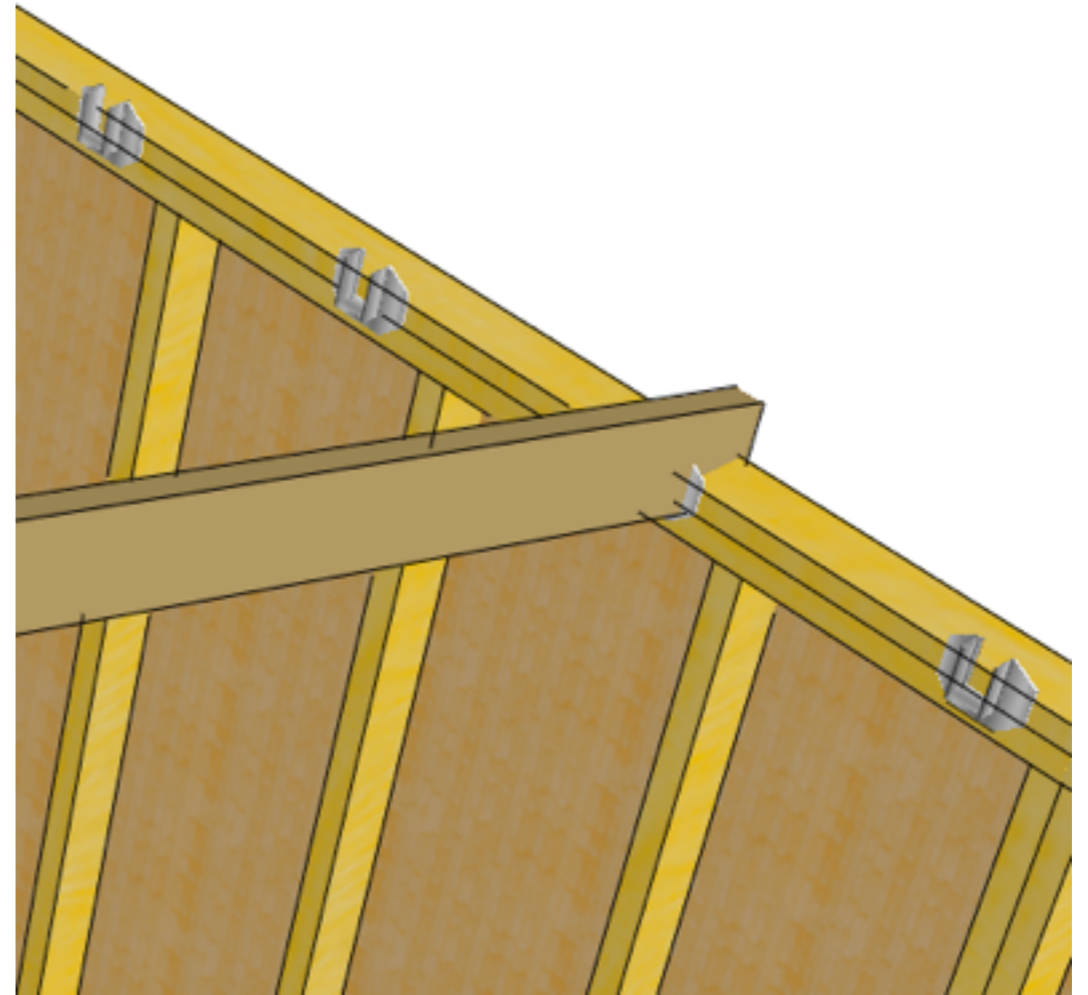
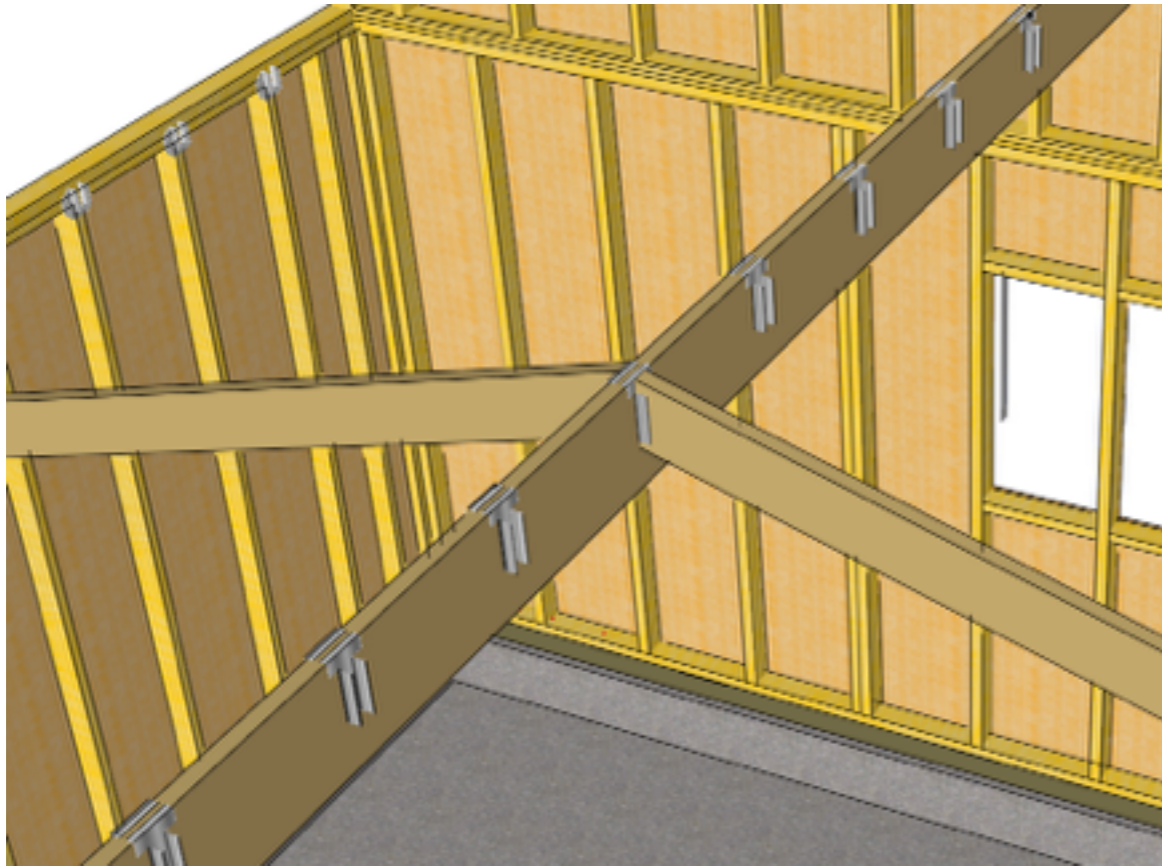
以後、455ミリ間隔で印をつけてください。

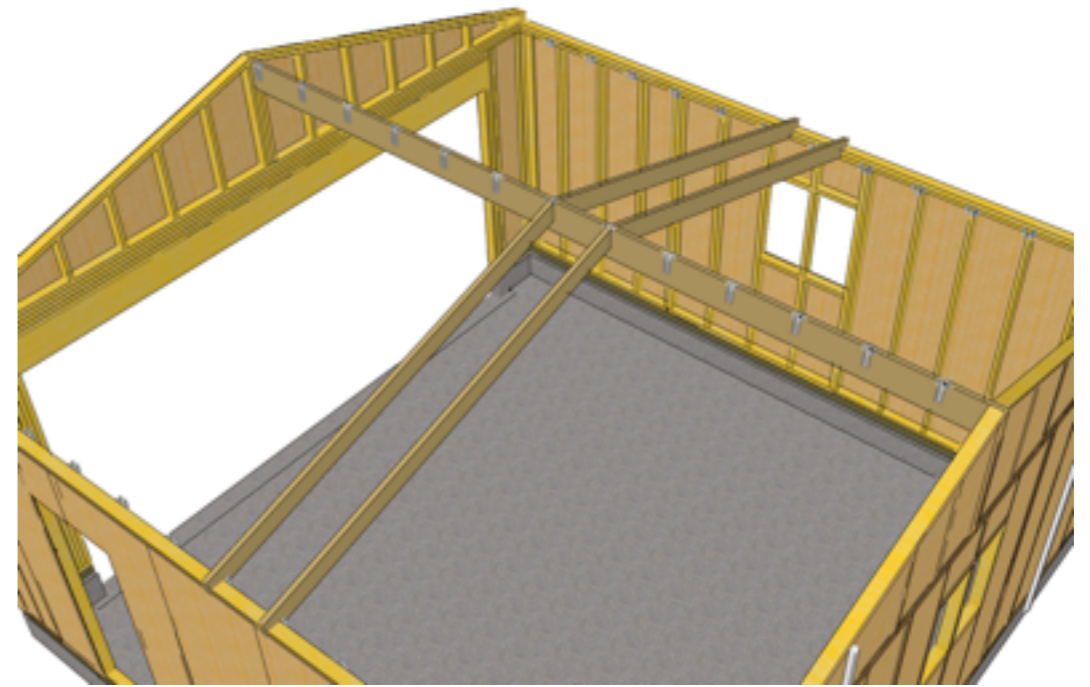
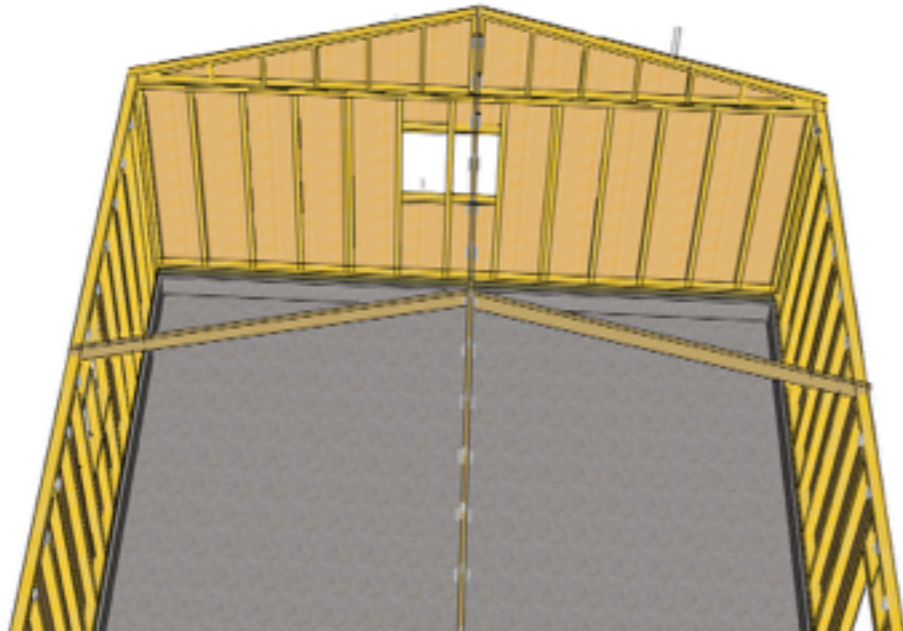


棟木の印と同じ間隔で記してください。後で消せるように、鉛筆を使って下さい。



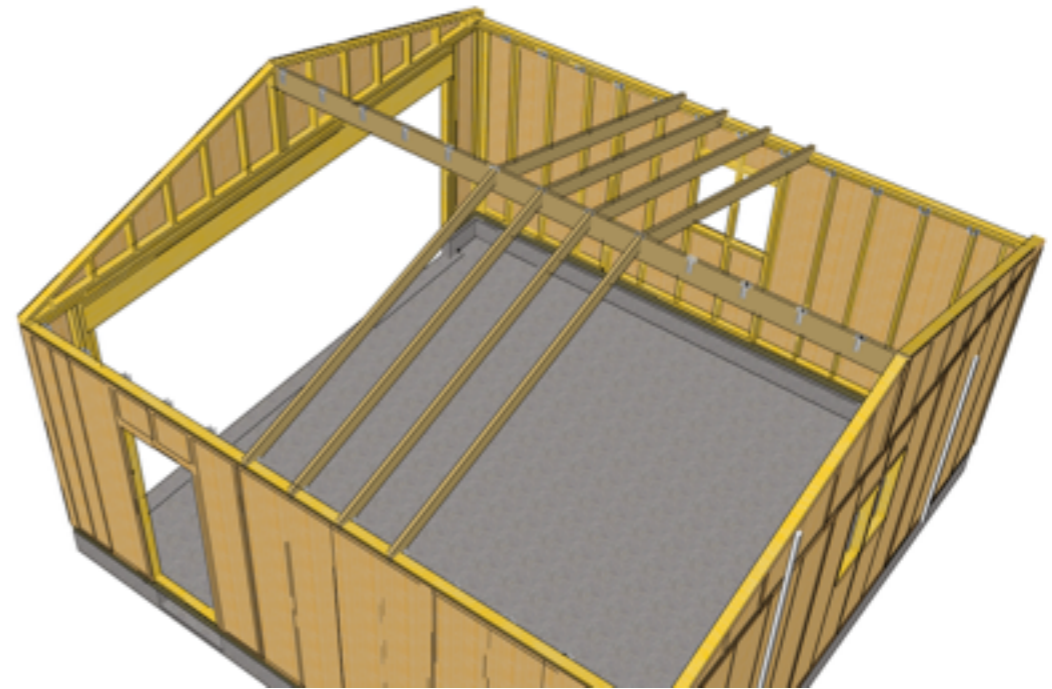
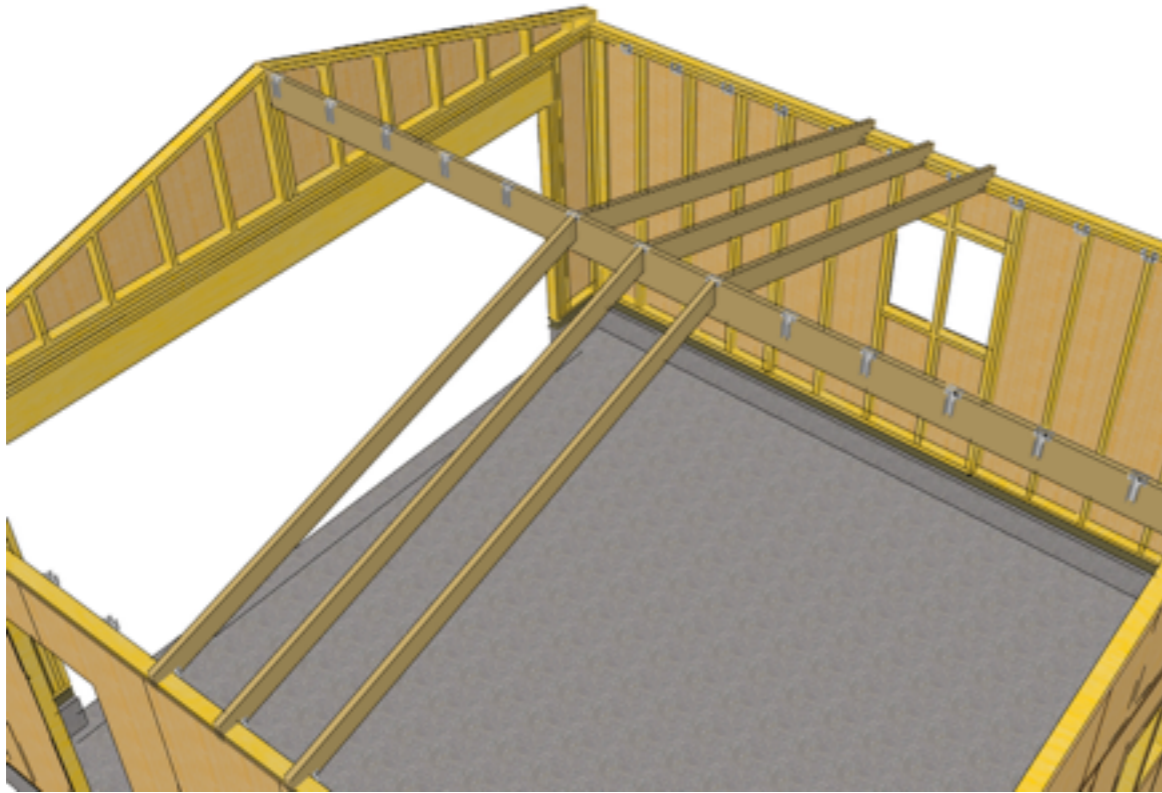
このように金物をつけます。



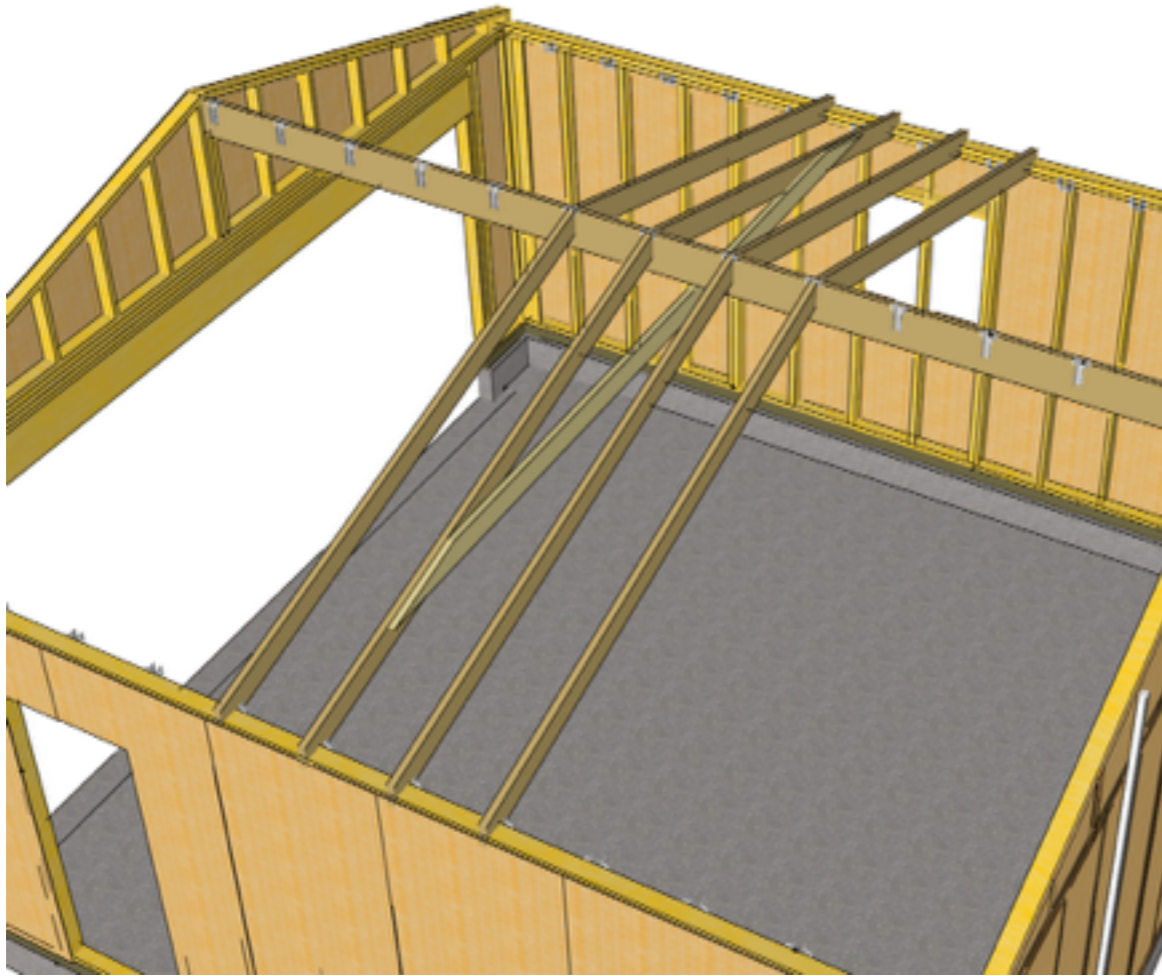


中心に近い垂木を先に固定してください。

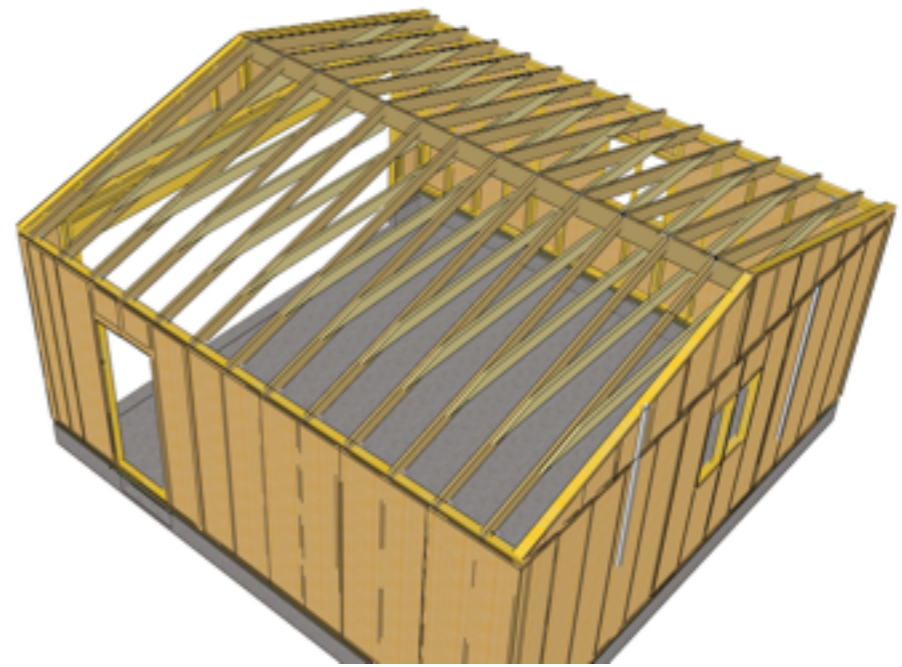
棟木や壁が歪むのを防ぎます。



なるべく 左右、前後 交互に固定して行って下さい。

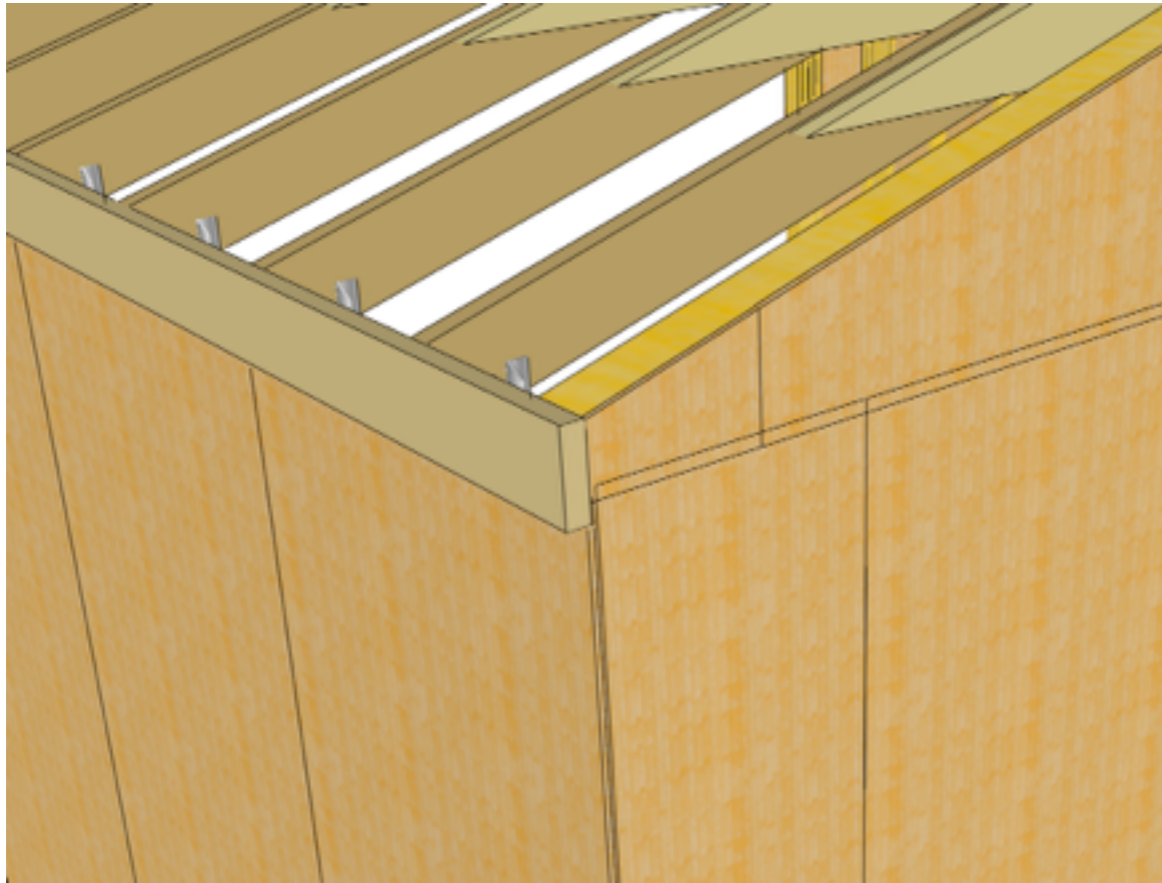


垂木つなぎも早めに入れて下さい。

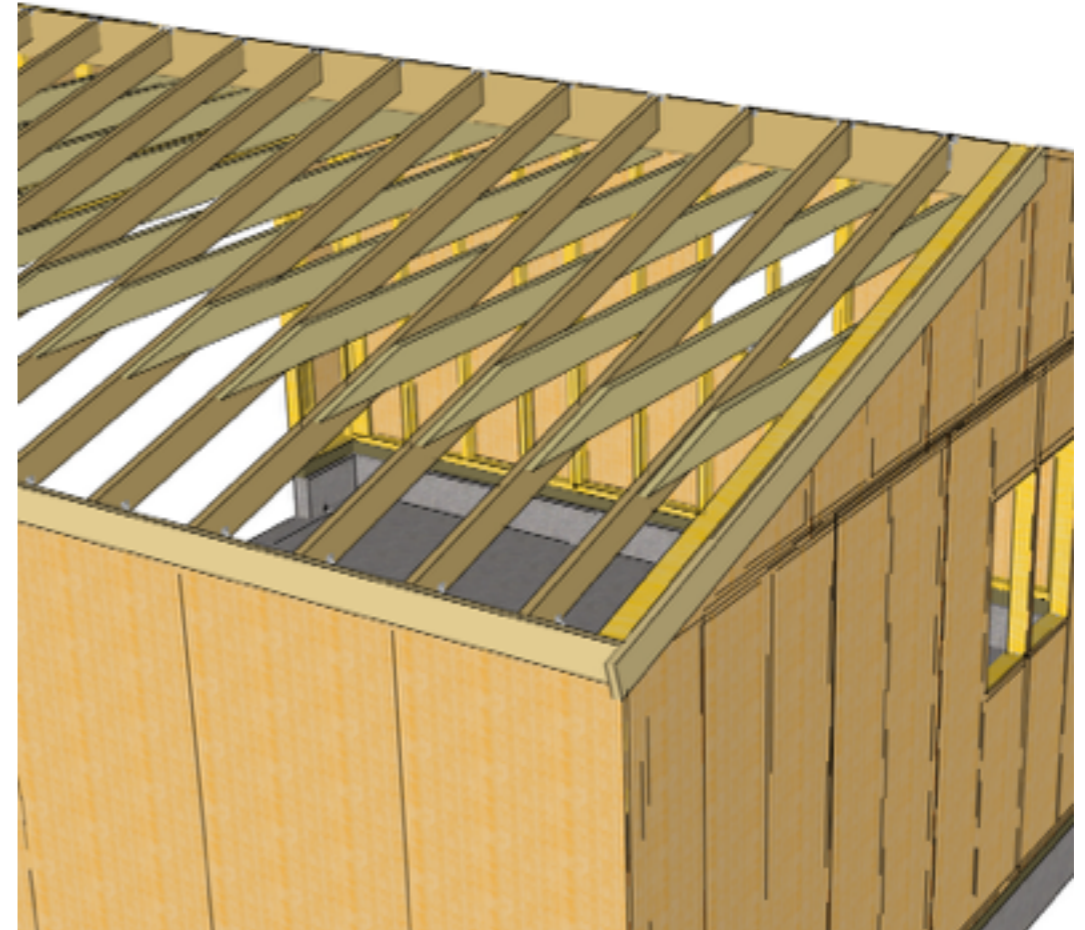


全て垂木を入れた状態です。

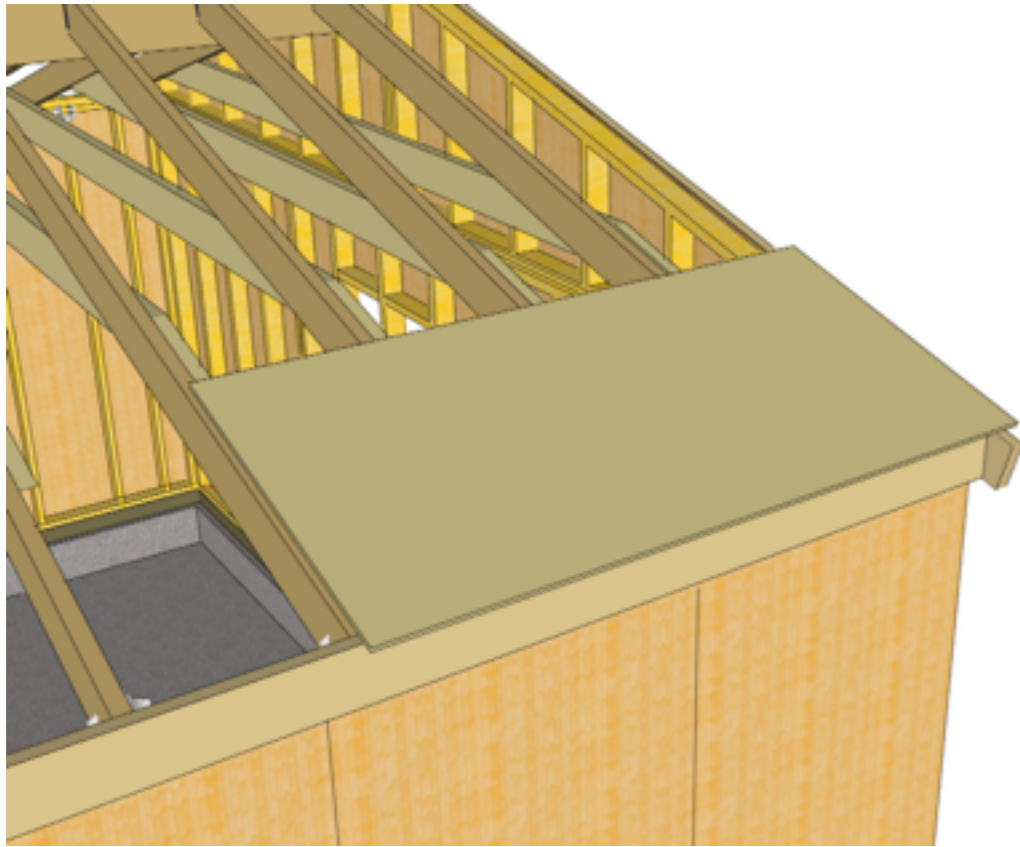
最後の方に出てきますが、先に振れ止め（ブロッキング）を入れても構いません。



206で鼻隠しを入れます。

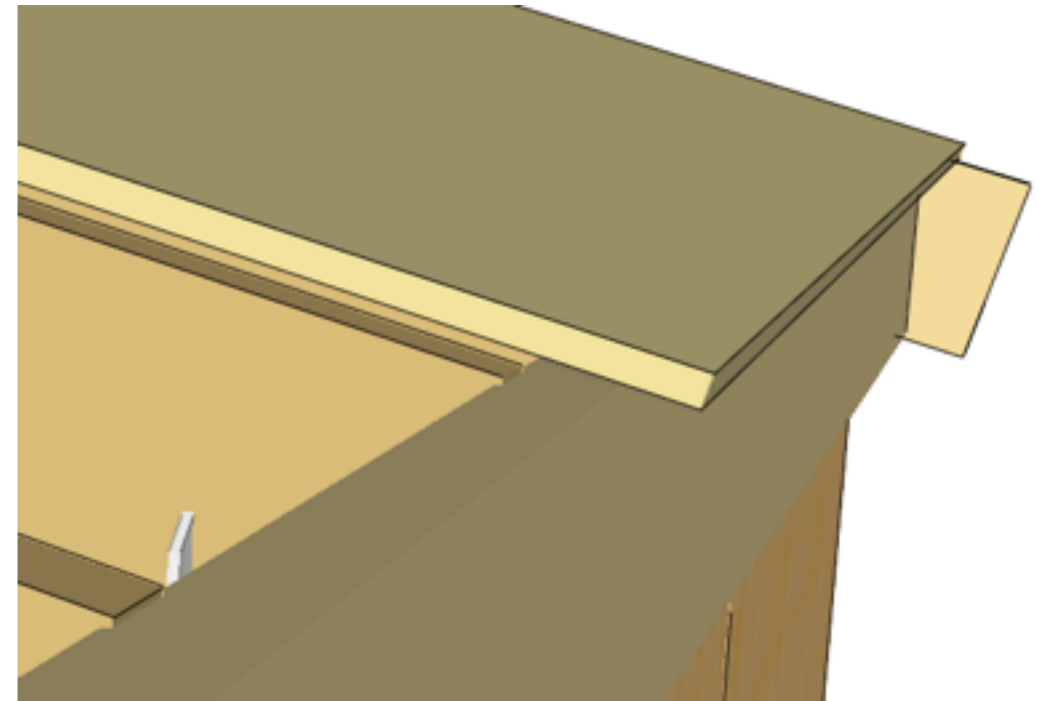


206破風板を入れます。

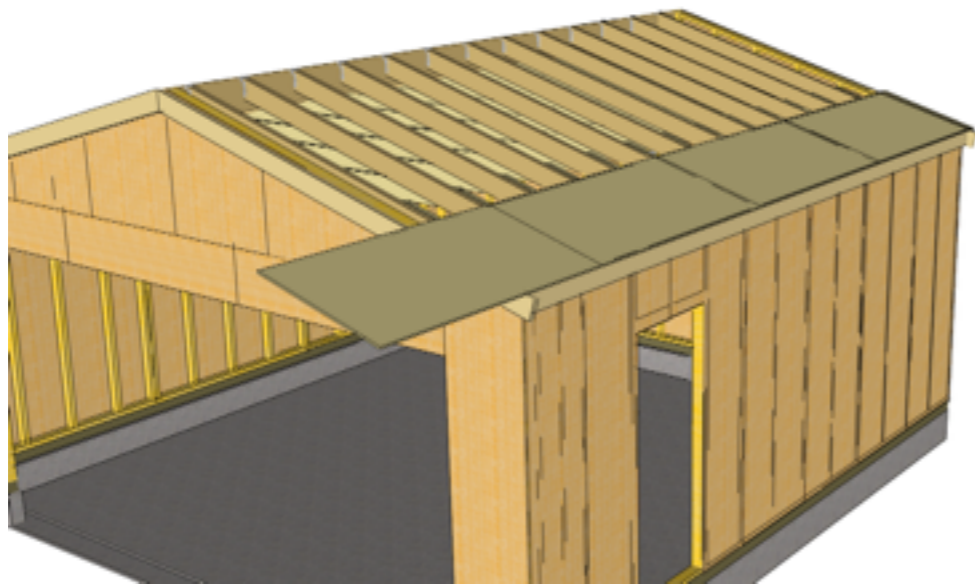


野路合板を貼ります。

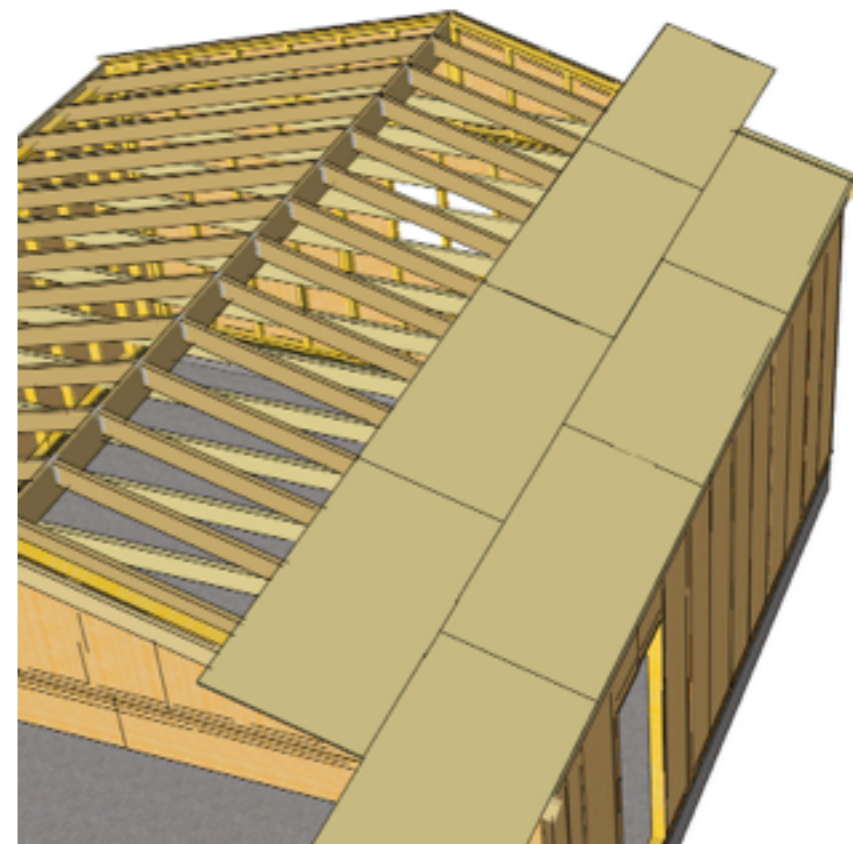
垂木の中心が基準になります。破風板より出して下さい。



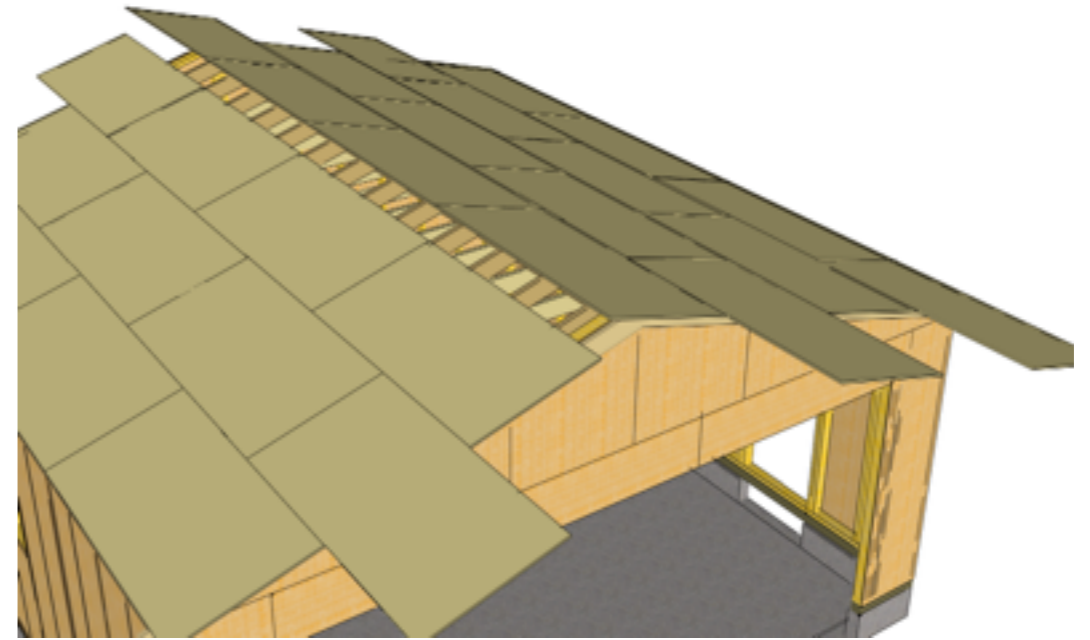
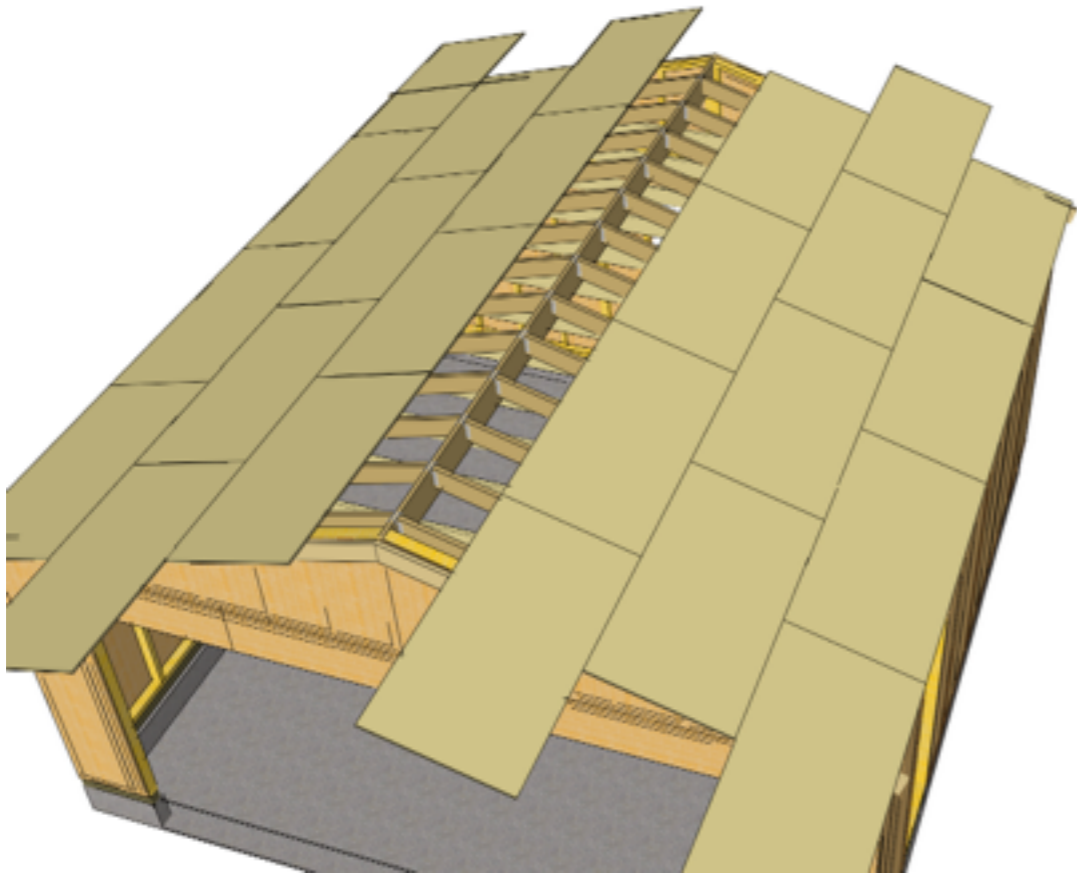
鼻隠しより20ミリ程出して下さい。



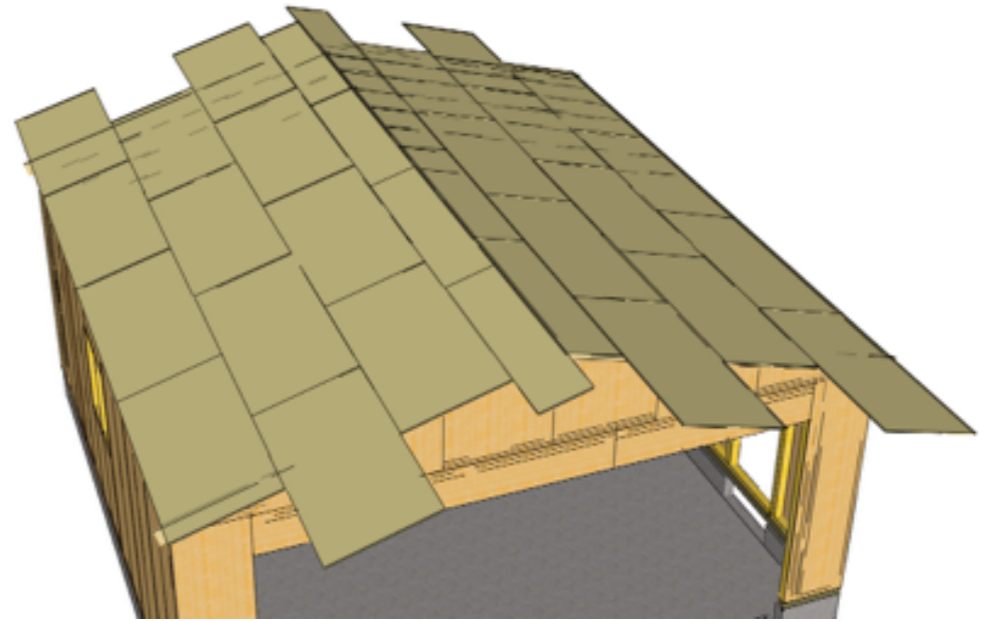
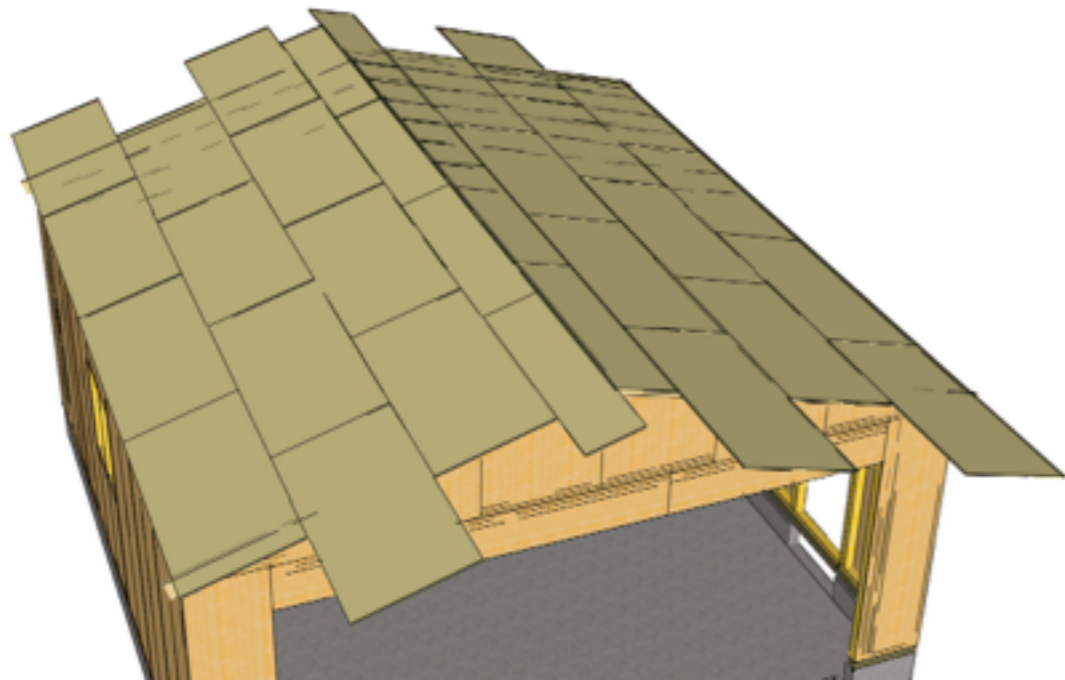
ビスで外せるように、4点程でかまいませんので、仮止めですすめてください。



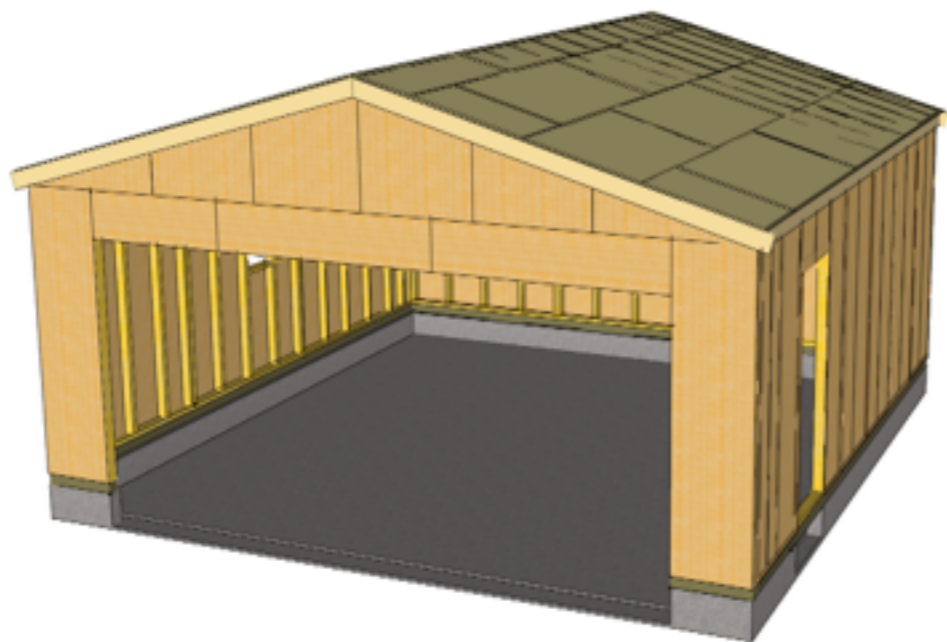
互い違いで止めて下さい。(千鳥といいます。)



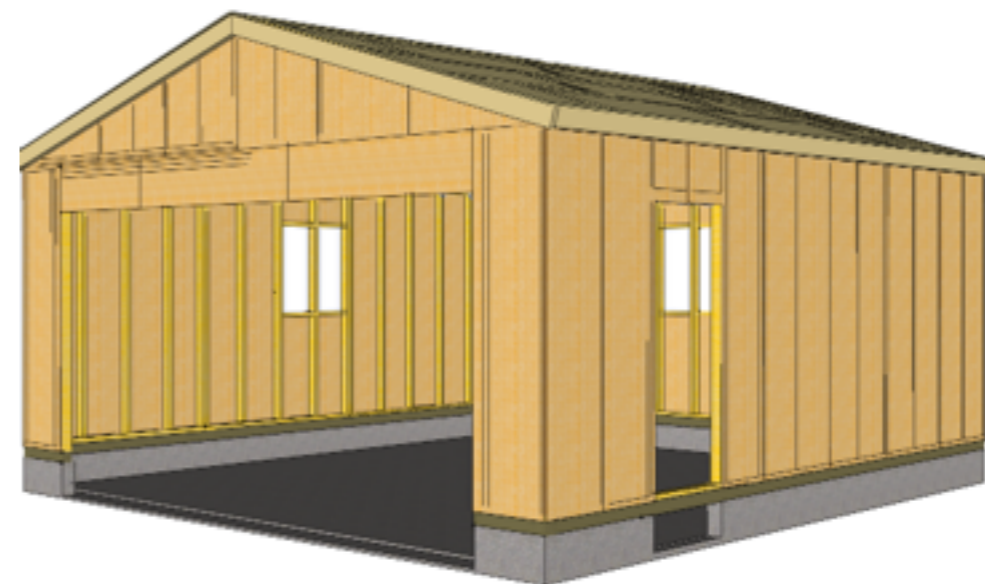
鼻隠しより20ミリ程出して下さい。



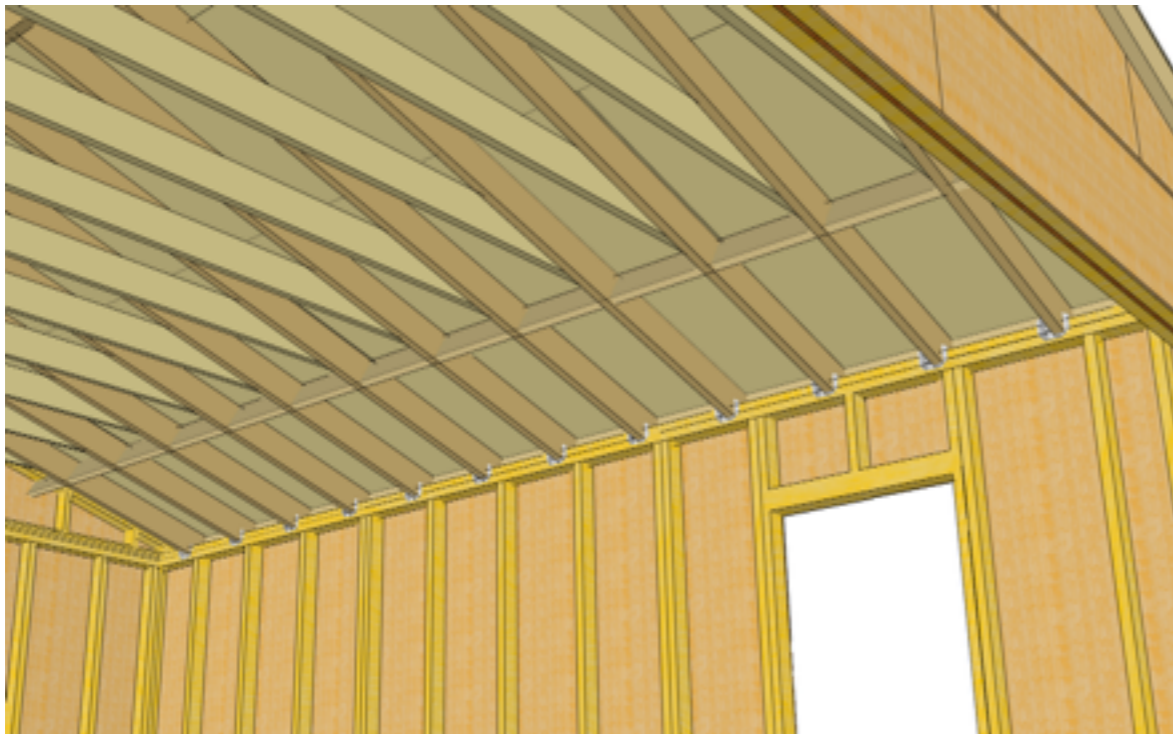
鼻隠しより20ミリ程出して下さい。



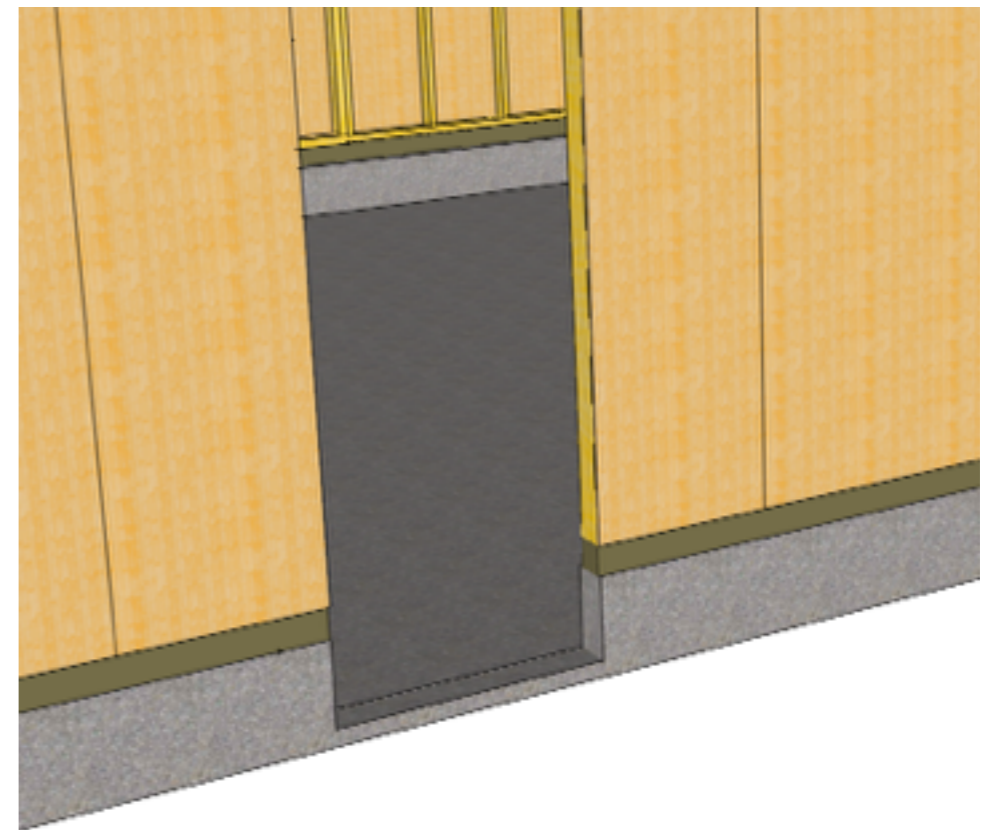
野路の釘は緑色の50ミリの釘を使って、150ミリ以下の間隔で打ってください。
ジョイント部分は実がありますので、不要になります。



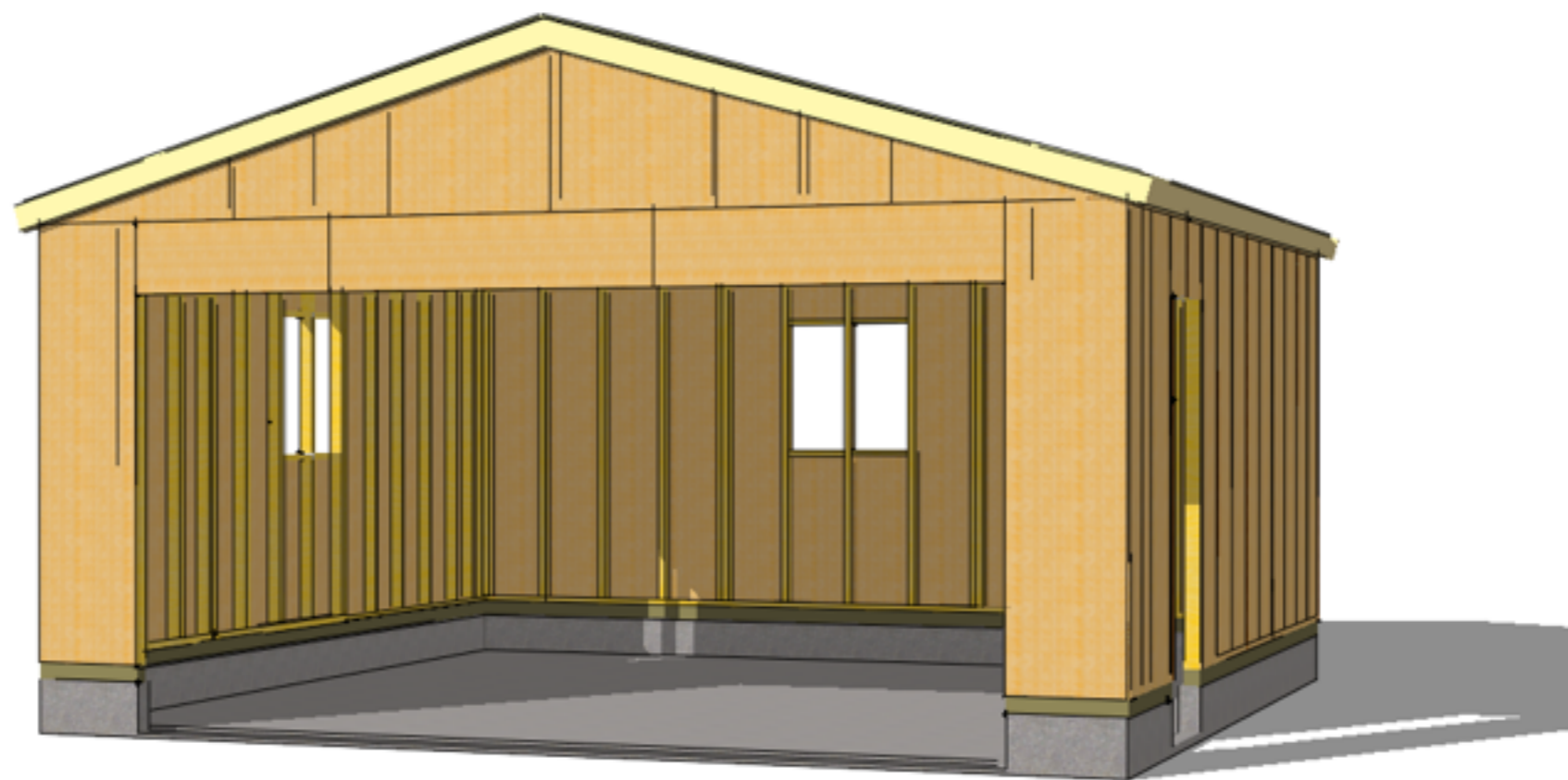
壁ジョイント部分の釘は、緑色の50ミリのネイルを使って、
100ミリ以下の間隔で打ってください。
ジョイント部分は実がありますので、不要になります。



最後に、垂木の振れ止めを入れます。75ミリの釘で止めます。
斜め止めの際は、垂木が割れないように、した孔を先にあけてください。
(大変でしたら、野路を貼る前に入れて頂いても構いません。)



開口部の余分な木をカットして完了です。



フレーミング完了です。